下原・賽神Ⅱ遺跡

－工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１１

安中市埋蔵文化財発掘調査団

下原・賽神Ⅱ遺跡

－工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１１

安中市埋蔵文化財発掘調査団

序

群馬県の南西部に位置する安中市は、奇峰妙義山や清流碓氷川などを有する緑豊かな田園都市です。長野県と接する本市は、古来より交通の要の地として賑わいを見せてきました。古代における東山道に始まり、江戸時代の五街道の一つ中山道や、明治時代の近代化遺産である鉄道施設、近年では高速道路・新幹線と、常に交通の要衝として栄えてきたのが本市であります。このように、豊かな自然に囲まれ、古くから培われてきた歴史の中で、現在私たちは生きているのです。これらの歴史的遺産を未来へ正しく伝え残していくことは、今を生きる我々の重要な責務であると考えています。

さて、本書において報告致します下原・賽神Ⅱ遺跡は、市の南西部の鷺宮地区に位置しています。遺跡地は柳瀬川の支流である猫沢川と天神川に挟まれた台地上に立地しており、過去の発掘調査により多くの遺跡が確認されている場所です。周辺地域一帯では、これまでの発掘調査において弥生時代後期～古墳時代初頭・古墳時代後期・平安時代を中心とする集落遺跡が確認されており、「蔵畑・諏訪ノ木遺跡群」と称されています。今回の発掘調査によって、この遺跡群の全容解明に向け、また一つ資料の蓄積がなされました。本報告が学術分野に寄与するだけではなく、地域を学ぶ郷土資料として活用されることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査にご協力いただきました株式会社ユー・コーポレーション様、発掘調査に従事していただいた方々、有益なご指導・ご助言をいただいた多くの方々に厚く感謝申し上げ序といたします。

平成23年９月

安中市埋蔵文化財発掘調査団
団長　中澤　四郎

例　言

1　本書は、株式会社ユー・コーポレーションが実施した工場建設に伴う下原・賽神Ⅱ遺跡（略号Ｇ－49）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　下原・賽神Ⅱ遺跡は安中市鷺宮字下原70番地外６筆に所在する。今回の調査区内に字賽神は所在しないが、下原・賽神遺跡に隣接する一連の遺跡であること、調査原因が同一であることから、遺跡名は下原・賽神Ⅱ遺跡と称した。

3　確認調査については、国庫補助金・県費補助金により安中市教育委員会が平成21年度に実施し、本調査及び遺物整理は、原因者負担により安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団（団長　中澤四郎）が委託を受け、平成21年10月より23年度まで実施した。

4　確認調査は安中市教育委員会学習の森主査（当時）壁伸明が担当し、発掘調査は安中市教育委員会学習の森主査千田茂雄が担当した。遺物整理は平成21年度は千田が、平成22・23年度は壁（平成23年度は安中市行政事務嘱託）が担当した。

5　確認調査は平成21年８月25日より８月27日まで実施した。発掘調査は平成21年10月５日より11月５日まで実施した。遺物整理は調査終了後より平成23年６月29日までの間、断続的に実施した。

6　本書の編集は千田と壁が行い、鬼形敦子がこれを補佐した。執筆は壁が行い千田が加除修正した。文責は壁にある。

7　遺物整理及び図版の作成・遺物実測・トレースは、千田・壁・鬼形・中里徳子が行った。遺物実測・トレースの一部を（有）前橋文化財研究所に委託した。遺物観察表の作成は壁が行った。

8　遺構の写真撮影は千田が行った。航空写真撮影・遺構測量は（株）測研に委託した。

9　発掘調査の記録・出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

10　発掘調査及び整理作業にあたっては、次の方々・機関よりご教示・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。（敬称略・順不同）

石丸　敦史　　湯本　今朝夫　　（有）毛野考古学研究所

11　発掘調査・遺物整理従事者

生駒　朝男　　今井　保美　　岩井　英雄　　上原　上　　宇佐美　璋一　　鬼形　敦子

多胡　わぐり　　中里　徳子　　野口　義則　　萩原　治枝

凡　例

1　遺構実測図は1/80を基本としている。これ以外については図中に縮尺を記した。

2　遺物実測図は1/4を基本としている。これ以外については図中に縮尺を記した。

3　遺構図中の北マークは国家座標の北を表している。座標系は世界測地系を使用した。

4　土層説明中の記号・略称は次のとおりである。

土層名称及び量の基準：「新版標準土色帖」による。

色調＜：より明るい方向を示す（暗＜明）。

しまり、粘性　◎：あり　○：ややあり　△：あまりない　×：なし

混入物の量　◎：大量（30～50％）　○：多量（15～25％）　△：少量（5～10％）

※：若干（1～3％）　×：なし

混　入　物　RP：ローム粒子（溶け込んだ状態）　RB：ロームブロック（固まりの状態）

YP：浅間板鼻黄色軽石　　WP：白色軽石

5　ピットの深さ　○ 0～19cm　20～39cm　40～59cm　60cm以上

6　遺物分布図に用いた記号は以下のとおりである。

		10g	100g	1000g
土師器	坏系	▪	■	■
土師器	甕系	•	●	●
須恵器	坏系	▫	□	□
須恵器	甕系	○	○	○
須恵器	器種不明	◇	◇	◇
縄文土器		•	●	●
その他		▲	▲	▲

	1個	5個	10個
剣形	△	△	△
円盤・方形板	⊙	⊙	⊙
編み物石	+	+	+
原石	▪	■	■
砥石	⊞	⊞	⊞
敲石	⊕	⊕	⊕
磨石	⌀	⌀	⌀

なお、縄文石器・弥生土器の記号については図中に凡例を示した。

7　本文及び表中等で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いている。
浅間Ａ軽石：As-A　浅間Ｂ軽石：As-B　浅間Ｃ軽石：As-C　浅間板鼻黄色軽石層：As-YP

8　調査時に付した遺構名称を変更したものは以下のとおりである。出土遺物の注記・台帳の作成等は旧遺構名で行っている。なお、これに伴い古墳時代～古代の住居址を表すＨ－４号・８号は欠番とした。

（変更前）	（変更後）	（変更理由）
Ｈ－４号住居址	Ｊ－１号住居址	縄文時代の所産と判断したため。
Ｈ－８号住居址	Ｙ－１号住居址	弥生時代の所産と判断したため。

9　遺物観察表内の（　）は推定値を、〈　〉は残存値を示している。

10　石器の分類、石材・器種等の略号については、大工原豊氏の基準・方法（1993年、1998年等）に準じている。

目　　次

序
例言
凡例
目次
Ⅰ　調査に至る経過…… 1
Ⅱ　発掘調査の方法と経過…… 1
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境…… 3
Ⅳ　層序…… 3
Ⅴ　遺構と遺物…… 8
　1　遺跡の概要
　2　縄文時代
　3　弥生時代
　4　古墳時代～古代
Ⅵ　成果と問題点……29
写真図版
抄録

挿　図　目　次

第１図　確認調査トレンチ位置図…… 2
第２図　基本土層模式図…… 3

第３図　周辺遺跡分布図…… 4
第４図　遺跡位置図…… 6
第５図　グリッド設定図・全体図…… 7
第６図　Ｊ－１号住居址……10
第７図　Ｙ－１号住居址……11
第８図　Ｈ－１号住居址……12
第９図　Ｈ－２号・10号住居址 ……13
第10図　Ｈ－３号住居址 ……14
第11図　Ｈ－５号住居址 ……15
第12図　Ｈ－６号住居址 ……16
第13図　Ｈ－７号住居址 ……16
第14図　Ｈ－９号住居址 ……17
第15図　Ｈ－11号住居址 ……18
第16図　１号溝 ……19
第17図　１号土坑 ……20
第18図　１号井戸 ……20
第19図　亀裂（地震による断層）……21
第20図　Ｊ－１・Ｙ－１号住居址出土遺物 ……22
第21図　Ｈ－１・２・10・３号住居址出土遺物 ……23
第22図　Ｈ－５・６・９・11号住居址出土遺物 ……24
第23図　Ｈ－11号住居址・遺構外出土遺物 ……25
第24図　本遺跡及び周辺遺跡の時期別住居址数 ……30
第25図　本遺跡及び周辺遺跡で確認された亀裂 ……31

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧…… 5
第２表　Ｊ－１・Ｙ－１・Ｈ－１号住居址出土遺物観察表……26
第３表　Ｈ－~~１~~ ２・10・３号住居址出土遺物観察表 ……27
第４表　Ｈ－５・６・９・11号住居址出土遺物観察表 ……28
第５表　遺構外出土遺物観察表……29
第６表　本遺跡及び周辺遺跡で確認された亀裂一覧……30

写真図版目次

図版１　調査区全景、Ｊ－１・Ｙ－１・Ｈ－１・２・10号住居址
図版２　Ｈ－３・５・６・７・９・11号住居址、Ｍ－１号溝址
図版３　Ｊ－１・Ｙ－１号住居址出土遺物
図版４　Ｈ－１・２・10・３号住居址出土遺物
図版５　Ｈ－５・６・９・11号住居址出土遺物
図版６　Ｈ－11号住居址、遺構外出土遺物

Ⅰ　調査に至る経過

平成21年４月17日、株式会社ユー・コーポレーションから工場建設工事に係わる埋蔵文化財の照会があった。事業計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地（市NO. 433）内であり、隣接地は同社の工場建設に先立ち、平成12年度に発掘調査を実施している（下原・賽神遺跡）。以上の点から、今回の開発地内にも遺跡が存在する可能性は極めて高く、工事を実施する場合には埋蔵文化財の保存措置を講じる必要があることを、４月27日会社側へ回答した。その後、会社側と市教育委員会で埋蔵文化財の取り扱いについて協議を進めてきたが、工事計画の変更は困難であるとのことから、事業計画地内における遺跡の性格を把握するための確認調査を実施し、その結果により再度埋蔵文化財の取り扱いについて協議することとなった。８月11日、確認調査依頼書が提出され、これを受け平成21年８月25日から８月27日まで確認調査を実施した。結果、事業計画地ほぼ全域に弥生時代～平安時代の遺跡が存在することを確認した。この確認調査の結果を受け、再度会社側と協議を行い、工事により遺跡が影響を被る部分を対象に発掘調査を実施し、記録保存の措置を講じることになった。発掘調査は会社側の依頼により安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団（団長　中澤四郎）が実施することとなった。平成21年９月30日、両者の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を開始した。なお、前述のように、確認調査では事業計画地のほぼ全域において遺構が検出されたが、工場建設部分以外は緑地帯として利用されるため遺構への影響はないと判断し、発掘調査は工場建設部分のみを対象とした。

Ⅱ　発掘調査の方法と経過

確認調査はバックホー（0.7㎥）により幅２ｍのトレンチを掘削した。掘削したトレンチの本数は９本であり、内５本は建物建設部分内に設定した。９本のトレンチ全てにおいて遺構が検出され、開発区域内のほぼ全域が遺跡地であることが想定された。確認された遺構は弥生時代～平安時代の住居址が20軒以上、その他に溝等が複数存在することが明らかになった。本調査は、前述の理由により工場建設部分のみを対象とした。

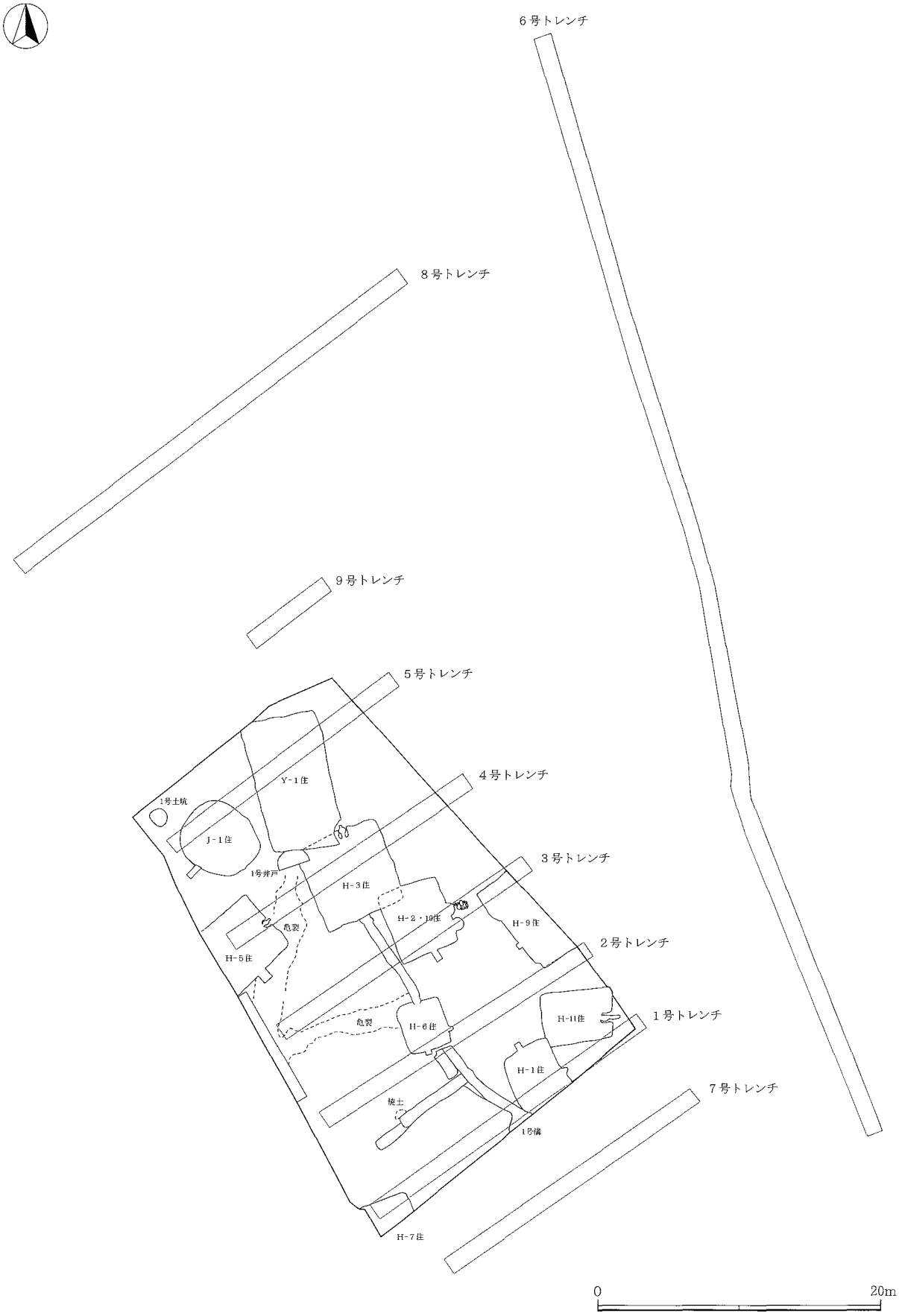
本調査は、遺構確認面（Ⅳ層上面付近、第２図参照）までバックホー（0.7㎥）により掘削し、その後人力でジョレンを用いての遺構確認を行った。グリッドは４ｍ×４ｍで設定し、国家座標（世界測地系）に取り付けた。北西端を基準とし、東西方向の数字と南北方向のアルファベットを組み合わせて表記した（第５図参照）。国家座標値（第Ⅸ系）は、各グリッドの北西端を代表させており、１Ａグリッドが$X=34668$、$Y=-84008$である。遺物包含層から出土した遺物は、４ｍ×４ｍのグリッドをさらに４分割しａ～ｄを付した小グリッドでの取り上げを基本とした。

検出された遺構については、遺構ごとに遺構略称と番号を付け、遺構の内容に応じた精査を行った。土層断面は、住居址は中央部分に十字に土層観察ベルトを設定し、溝は直行する方向で適宜記録した。各遺構の土層断面状況・遺物出土状況・完掘状況は、リバーサル及びモノクロフィルム（35㎜）及びデジタルカメラで写真撮影を行った。作業風景なども適宜撮影した。遺構の測量及び航空写真撮影は株式会社測研に委託して行い、必要な測量データをデジタルデータで記録した。

遺物の取り上げは基本的に各遺構ごとに行った。住居址はセクションのラインを基準に16分割し、各層位ごとに分層して取り上げる「分層16分割法」を用いた。最下層出土のものは、遺物出土状況として写真撮影を行い、個体として復元できる可能性が高い破片群については番号を付して取り上げた。

出土遺物は、洗浄した後、遺跡略称・遺構名などの出土位置を注記した。注記された土器・石器等の遺物については、器種分類及び計測・計量を行い、各種台帳を作成した。土器の復元は完形及び残存状況が良好な個体を優先して行い、バイサム（樹脂）で修復した。

資料整理作業及び報告書作成には、パソコンを使用し図版の作成・データ処理等を行い作業の効率化を図った。



第１図　確認調査トレンチ位置図

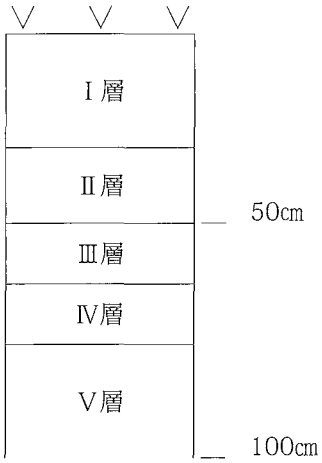
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境

下原・賽神Ⅱ遺跡は、市南東部の安中市鷺宮字下原と賽神の字境付近に所在する。本遺跡は碓氷川の上位段丘にあり、北を流れる柳瀬川の支流である猫沢川と、南を流れる天神川に挟まれた南西から北東へ細長く延びる台地上に位置している。この台地上はほぼ平坦な地形が広がっているが、遺跡地の北側に天神川の支流である小河川（丸子沢）が存在し、周辺は浅い谷地状地形を呈している。遺跡地の西は、丸子沢の源頭となっており湧水が認められる。換言すれば、本遺跡は天神川支流の丸子沢の湧水点付近を囲む台地状の一角に所在している。本遺跡の南西には蔵畑遺跡、西には諏訪ノ木遺跡が存在する。

本遺跡は縄文時代中期、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代を主体とする集落遺跡で、「蔵畑・諏訪ノ木遺跡群」に含まれる。本遺跡群は弥生時代後期終末～古墳時代前期と古墳時代中期後半～後期を主体とする時期的に補完関係のある集落遺跡（諏訪ノ木遺跡、蔵畑遺跡、蔵畑Ⅱ遺跡、山峰遺跡、道前久保遺跡等）で構成される。

縄文時代では前期～後期の良好な資料が確認された道前久保遺跡がある。弥生時代では後期樽式期と古墳時代前期まで継続する赤井戸・吉ヶ谷式系、東海系の土器群を有する集落が下原・賽神遺跡及び諏訪ノ木遺跡を中心に確認されている。古墳時代前期末では居宅の堀と考えられる溝を検出した蔵畑遺跡、方形周溝墓を検出した日向後原遺跡、中期では石製模造品が出土した経塚古墳があるが、この時期を主体とする集落遺跡は少ない。後期では遺跡数が増加し、集落遺跡としては下原・賽神遺跡、諏訪ノ木遺跡、蔵畑遺跡等がある。古墳時代終末から奈良時代にかけての遺跡は、中野谷地区を中心に「牧」に関連する遺跡が多数存在するが、本遺跡群ではこの時期の遺跡は少なく、平安時代になって再び遺跡が増加する。平安時代では、本遺跡、下原・賽神遺跡、墨書土器・石帯等の特殊遺物が出土した一般の農村集落とは異なる性格を持つと思われる蔵畑Ⅱ遺跡等がある。蔵畑・諏訪ノ木遺跡群の西には、時期的に補完的関係を有する集落群が展開する鷺宮地区遺跡群（荒神平・吹上遺跡、上ノ久保遺跡等）が存在する。中世以降では、本遺跡の西に鎌倉時代のものとされる「聖観音碑」が存在する。城館址では戦国期の天王山城、尾崎館址、座光寺館址がある。

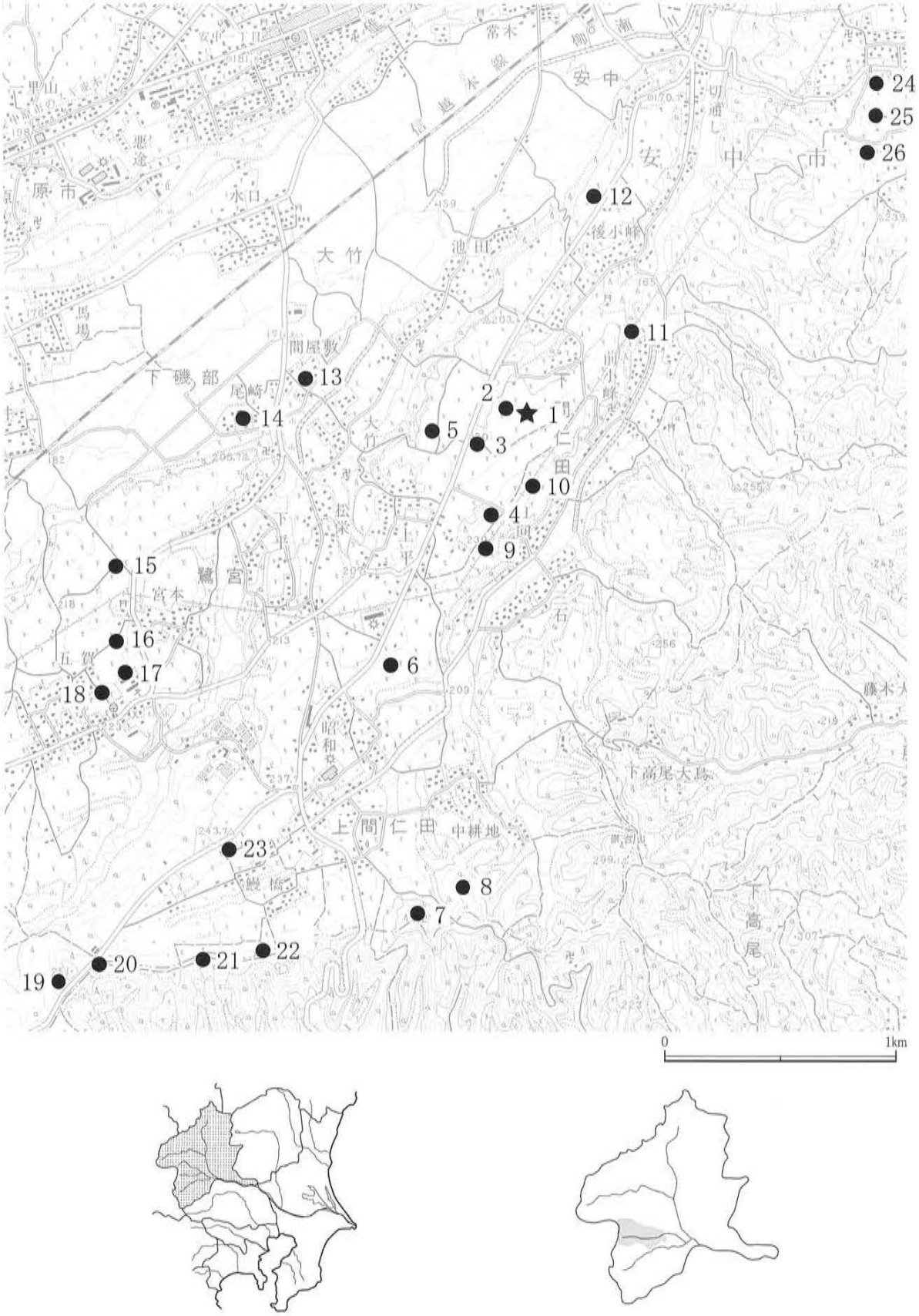
Ⅳ　層序



今回の調査地周辺は黒色土の堆積が厚く、農耕等により削平されている部分が比較的少ない。ただし、下原・賽神遺跡でも確認されている地震に伴う断層が本遺跡でも確認されており、一部に複雑な土層状況がみられる。市内で確認されている基本土層に準じ模式図で表すと第２図のとおりとなる。遺構はⅣ層上面付近で確認している。

第Ⅰ層	褐灰色土	As-Ａ混土層。現代の耕作土。Ⅰｂ層（Ａ純層）は確認されなかった。
第Ⅱ層	褐色土	As-Ｂ混土層。Ⅱｂ層（Ｂ純層）が部分的に存在する。
第Ⅲ層	黒色土	As-Ｂ下位の黒色土。粘性あり。
第Ⅳ層	暗褐色土	Ⅲ層より色調明るくしまっている。
第Ⅴ層	暗黄褐色土	ローム層。

第２図基本土層模式図

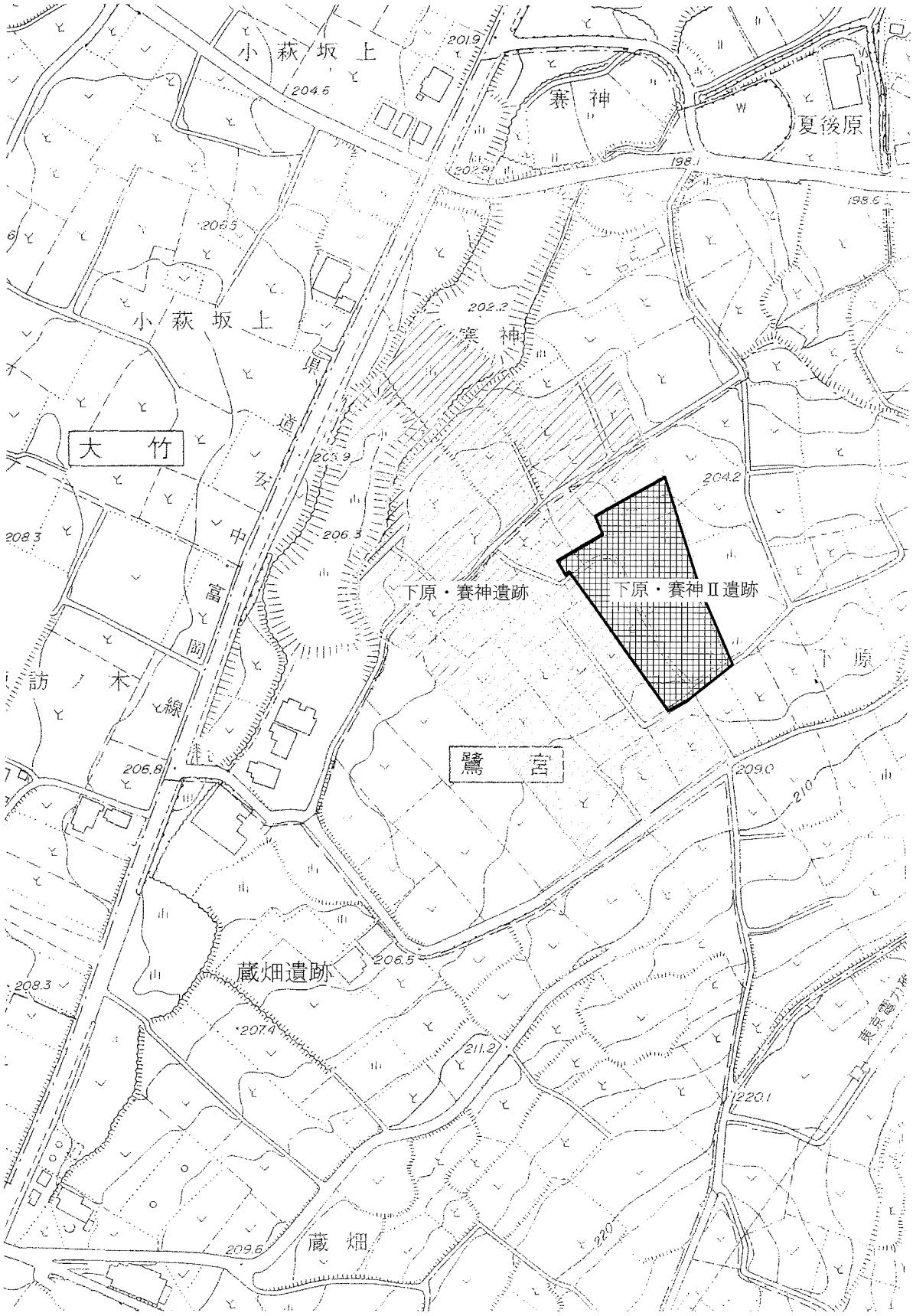

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
安中
安中市
原市
大竹
下磯部
上間仁田
下高尾
0
1km

第３図　周辺遺跡分布図

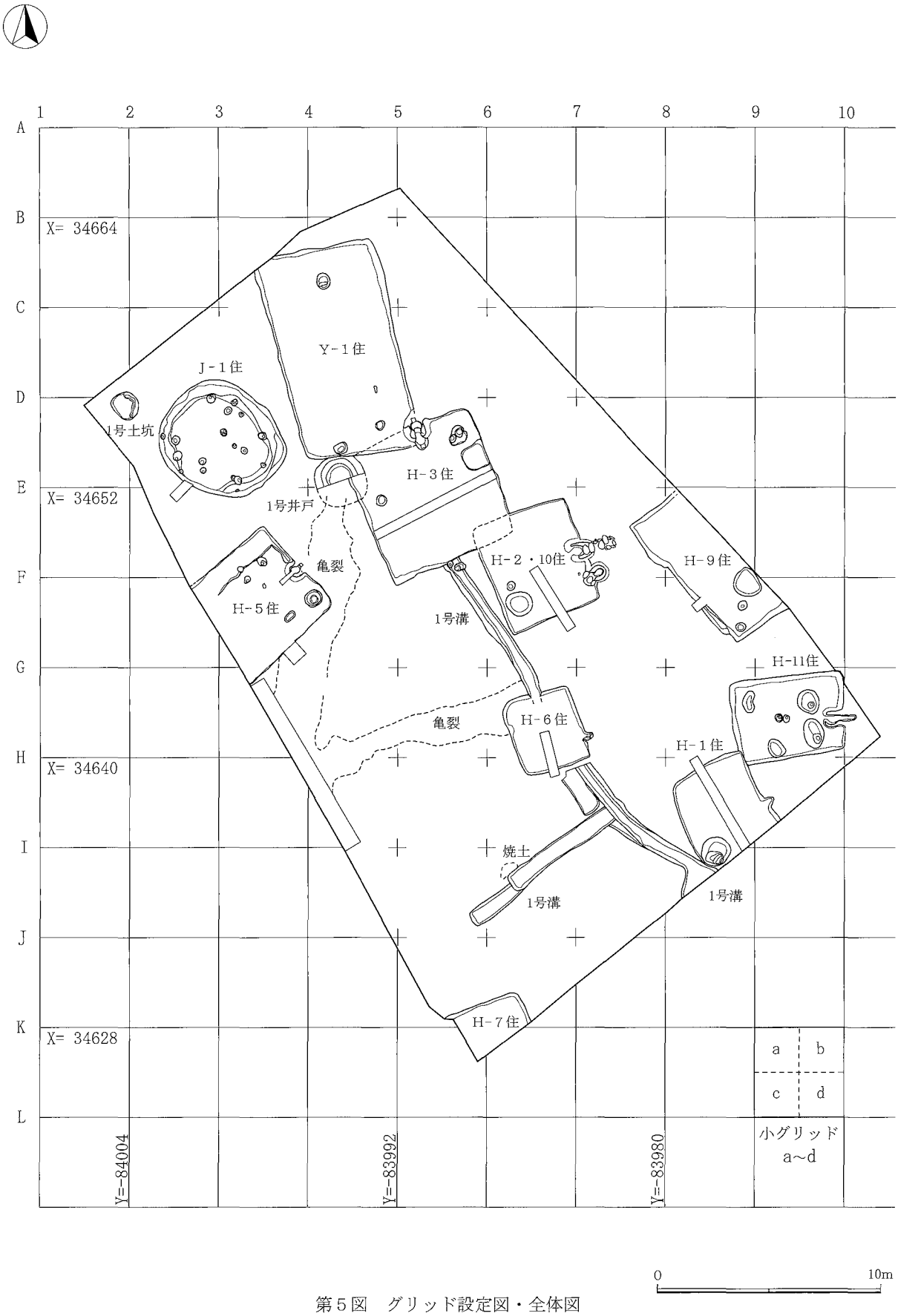
	遺跡名	旧	縄文						弥生		古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中	後	終					
1	下原・賽神Ⅱ					○				○			◎			◎			本書報告遺跡
2	下原・賽神									◎	○		◎			○			
3	蔵畑										◎	○	◎						
4	蔵畑Ⅱ															◎			
5	諏訪ノ木									◎	○	○	◎						
6	道前久保・同Ⅱ				◎	◎	◎								◎	◎			
7	経塚古墳											◎							
8	天王山城																◎		
9	日向後原										◎					○			
10	野毛良										※		○	○					
11	山峰				○	※				○									
12	三本松								※										
13	座光寺館址																◎		
14	尾崎館址																◎		
15	荒神平・吹上				△	◎	○			◎	◎	○	◎		◎	◎			
16	上ノ久保					◎	○			◎			◎		◎	◎	○		
17	桜林															◎			
18	五ケ															◎			
19	注連引原				◎			△	◎										
20	注連引原Ⅱ	※			◎	※	△	△	◎	△	◎					○	△		
21	大上					○			◎							△			
22	日影															△		△	
23	西原				○	◎													
24	野殿北屋敷																	◎	
25	西殿				※									○	○	○			
26	堀谷戸				※		※						○	○	◎	◎	△		

◎：大規模な遺跡（集落跡・古墳等）　○：中規模な遺跡（住居址・牧関連等）
△：小規模な遺跡（土坑・溝等）　※：遺物が出土した遺跡

第1表　周辺の遺跡一覧


小萩坂上
201.9
204.5
寒神
夏後原
198.1
202.9
198.6
206.5
小萩坂上
202.2
寒神
大竹
203.9
204.2
208.3
206.3
下原・寒神遺跡
下原・寒神Ⅱ遺跡
訪ノ木
206.8
鷺宮
209.0
210
蔵畑遺跡
206.5
208.3
207.4
211.2
220.1
蔵畑
209.6
220

第４図　遺跡位置図



第5図　グリッド設定図・全体図

Ⅴ　遺構と遺物

1　遺跡の概要

今回の調査により竪穴住居址11棟、溝１条、土坑１基、井戸１基等が検出された。竪穴住居址の時期別棟数は縄文時代中期１棟、弥生時代後期１棟、古墳時代４棟、平安時代５棟である。その他に時期は断定できないが、地震に起因すると考えられる断層が確認された。今回検出された集落は、天神川支流源頭の湧水地北東に立地する、隣接している下原・賽神遺跡と一連のものである。

2　縄文時代

Ｊ－１号住居址

縄文時代所産の遺構は本住居址１棟のみである。平面はほぼ円形を呈し、直径５ｍ強、深さ0.5ｍを測る。壁は比較的緩やかに立ち上がる。壁際及び床面において10基以上のピットが検出されているが、主柱穴等の構造は不明である。炉址も確認されていない。出土遺物は比較的少量であるが、遺構の形状・規模・遺物出土状況より中期前半の住居址と判断した。当該住居址は遺構確認が難しく、出土遺物も少なく、覆土の観察でも明確にしきれない部分が多い住居址であった事を付記しておく。

3　弥生時代

Ｙ－１号住居址

４Ｃグリッド他に位置する。平面は南北に長い長方形を呈し、南北9.4m、東西5.4m、深さ0.7ｍを測る。南壁から南東コーナー部分が後出するＨ－３号住居址と重複するが、本住居址の掘り込みの方が深いため全体形状・構造は確認できた。炉は中央北寄りと南東寄りの２基を有する。南壁西寄りの土坑が貯蔵穴である可能性が考えられる。柱穴・壁周溝は確認されなかった。出土遺物・住居構造等より後期樽式期の所産と考えられる。

4　古墳時代～古代

Ｈ－１号住居址

８Ｈグリッド他に位置し、南東部分が調査区外になり未調査である。北東コーナー部分がＨ－11号住居址と、南東コーナー部分がＭ－１号溝と重複する。平面は南北に長い長方形を呈すると推測される。遺構確認の難しい部分が多くプランの不明確な部分が存在するが、規模は南北4.2m（確認部分）、東西4.0m、深さ0.2ｍを測る。東壁にカマドが付設されているが、遺存状況は不良である。また、南西コーナー付近において土坑が確認されている。出土遺物より10世紀前半の所産と考えられる。

Ｈ－２号・10号住居址

６Ｅグリッド他に位置する。平面は南北にやや長い長方形を呈し、南北5.0m、東西4.5m、深さ0.2ｍを測る。北西コーナー部分がＨ－３号住居址と重複する。東壁中央と南寄りに２基のカマドが付設されている。当該住居址も確認が難しく、掘り込みも浅く覆土の観察も明確ではなかったが、調査時においては２棟の住居址の重複と判断し、北のカマドを10号住居址カマド、南のものを２号住居址カマドとした。出土遺物は古墳時代（６世紀前半主体）のものと平安時代（９世紀後半主体）のものが混在している。明確ではないものの南北方向の土層断面図では、南半に平安時代の住居址が存在することが看取でき、調査時は２号住居址カマドを平安時代の所産、10号住居址カマドを古墳時代の所産と想定していた。しかし、整理作業が進行するに従い10号住居址カマド出土遺物は平安時代のものが主体をなし、２号住居址カマド出土遺物は古墳時代・平安時代のものが混在することが分かってきた。また、16分割で取り上げた遺物をみても、平安時代の遺物のみが集中する部分はなく、全体において古墳・平安時代の遺物が混在する傾向が認められた。このような状況を総合的に判断し、古墳時代と平安時代の住居址が重複している可能性は高いと思われるが、詳細については不明と言わざるを得ない。

Ｈ－３号住居址

５Ｅグリッド他に位置する。北西部分がＹ－１号住居址・Ｉ－１号井戸と、南東部分がＨ－10号住

居址と、南北方向中央部においてＭ－１号溝と重複している。新旧関係は、本遺構がＹ－１号住居址より新しく、その他の遺構より旧い。平面はほぼ正方形を呈し、南北６ｍ強、東西6.1m、深さ0.4mを測る。カマドは北壁中央付近に付設されている。北東コーナー付近のＰ－１は貯蔵穴の可能性がある。出土遺物より６世紀前半の所産と考えられる。

Ｈ－５号住居址

３Ｆグリッド他に位置し、西側部分が調査区外になり未調査である。平面は東西に長い長方形を呈すると推測され、南北5.0m、東西5.2m(確認部分)、深さ0.3mを測る。カマドは東壁中央に付設されている。北壁寄りの床面に浅い段差が認められ、間仕切りあるいは拡張住居である可能性がある。南東コーナー付近の土坑は貯蔵穴と推定される。出土遺物より６世紀後半から７世紀前半の所産と考えられる。

Ｈ－６号住居址

６Ｇグリッド他に位置し、後出するＭ－１号溝と重複する。平面は南北にやや長い長方形を呈し、南北3.6m、東西3.2m、深さ0.4mを測る。カマドは東壁南寄りに付設されている。出土遺物より10世紀の所産と考えられる。

Ｈ－７号住居址

調査区南端５Ｋグリッド他に位置する。住居北東部の部分的調査のため、形状・規模等は不明である。出土遺物は少量であり時期の断定は難しいが、羽釜片が出土していることから平安時代の所産と推定される。

Ｈ－９号住居址

８Ｅグリッド他に位置する。調査区東端付近に位置し一部のみを調査したが、平面は方形基調を呈する比較的大型の住居址と推測される。規模は7.1ｍ×2.8ｍ（確認部分）で深さ0.8mを測る。南コーナー付近で複数のピットが確認されている。出土遺物より古墳時代中期の所産と考えられる。

Ｈ－11号住居址

調査区東端９Ｇグリッド他に位置する。南西コーナー付近が後出するＨ－１号住居址と重複している。平面は東西に長い長方形を呈し、南北3.7m、東西5.1m、深さ0.6mを測る。東壁やや南寄りに比較的長い煙道を有するカマドが付設されている。出土遺物より９世紀後半の所産と考えられる。

Ｍ－１号溝

南東から北西へ調査区を縦断するように確認された。Ｙ－１号・Ｈ－３号・Ｈ－６号住居址と重複し、いずれのものより本遺構が新しい。ただし、調査期間の制約があり、住居址と重複する部分は遺構の新旧に関係なく住居址を優先して調査を行ったので、実際に調査を実施したのは約15m程である。幅0.7～1.0m、深さ最大0.8mを測る。断面は箱堀状又はＵ字状を呈する。覆土上位にAs-Bが弓状に堆積する。明らかに本遺構に伴う出土遺物はないが、他遺構との切り合い関係、覆土より平安時代後半の所産と推定される。

Ｄ－１号土坑

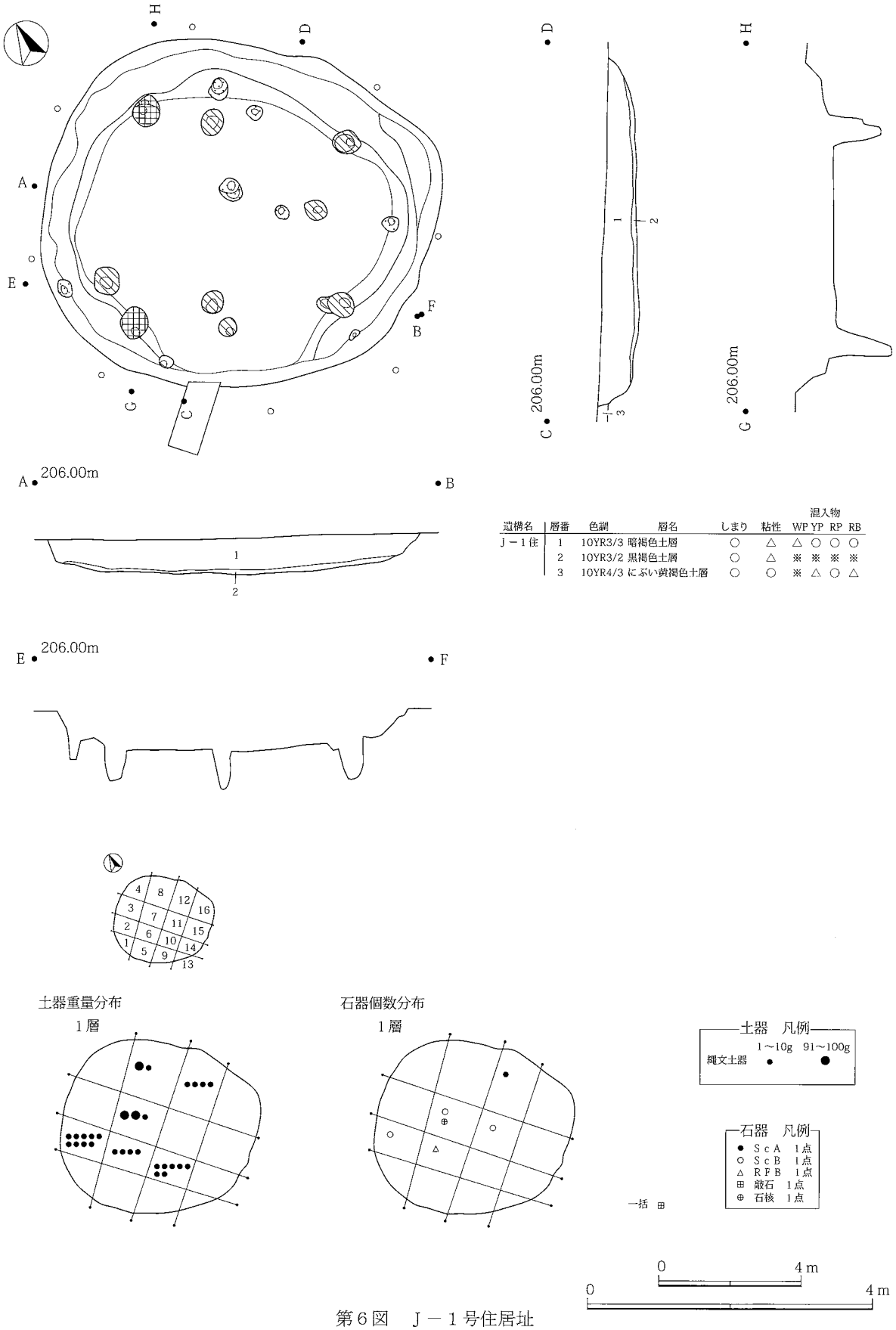
調査区西端、２Ｄグリッド他に位置する。径1.2～1.3m程のほぼ円形を呈する。断面は椀状で深さは0.4mを測る。東側底部付近に溝状に深い部分を有する。出土遺物がなく時期は不明である。

Ｉ－１号井戸

４Ｄグリッド他に位置する。Ｙ－１号・Ｈ－３号住居址と重複し、いずれのものより本遺構が新しい。平面は径2.5mほどの円形を呈し、確認面から１ｍ程の深さでくびれを持つ。くびれ部分の径は約１ｍを測り、その後下位に向かい緩やかに径が減少する。時間的制約と安全上の観点から、深さ1.8m程までの掘削にとどめた。内部周囲に石組みは確認されなかった。覆土は全体的にローム土を多く含み、人為的埋め戻しが行われた可能性が考えられる。遺物は出土していないが、他遺構との切り合い関係、覆土より古代の所産と推定される。

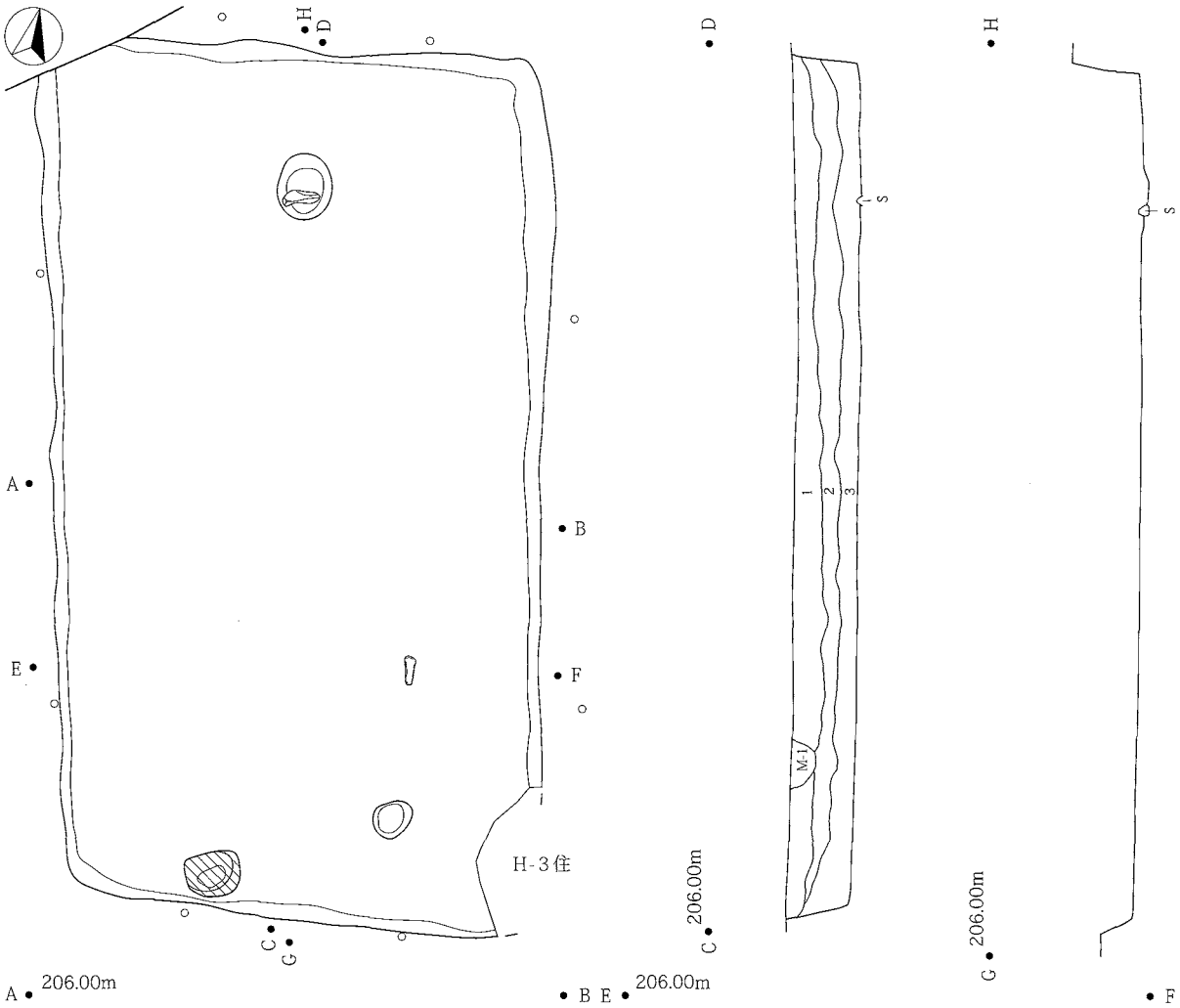
断層

調査区中央西寄りにおいて、地震に起因すると考える断層（亀裂）がＶ字状に検出された。地割れに伴う地層のずれや、液状化によるものと推定される墳砂の状況も確認された。時間的制約があり部分的な断面調査に留めざるを得なかったが、隣接する下原・賽神遺跡で検出されたものと同じ地震に伴うものと推測される。

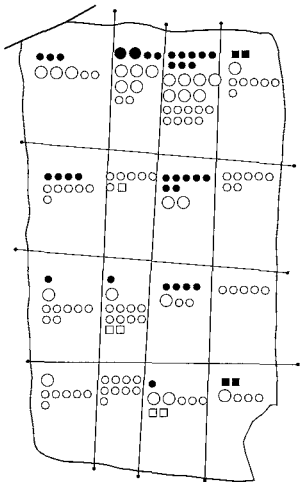


遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB
J－1住	1	10YR3/3	暗褐色土層	○	△	△	○	○	○
	2	10YR3/2	黒褐色土層	○	△	※	※	※	※
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	○	○	※	△	○	△

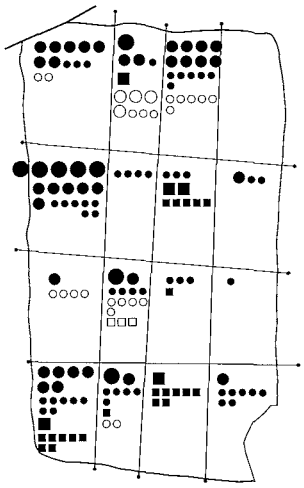
第６図　Ｊ－１号住居址



土器重量分布　1層

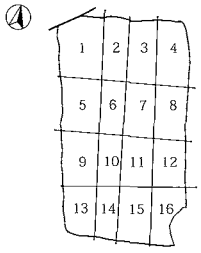


土器重量分布　2層



遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	炭化物
Y－1住	1	10YR3/3	暗褐色土層	○	△	△	△	△	△	※
	2	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	○	△	△	○	○	○
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	○	◎	△	○	◎	○	◎

3層は炭化材を多量に含む



土器　凡例

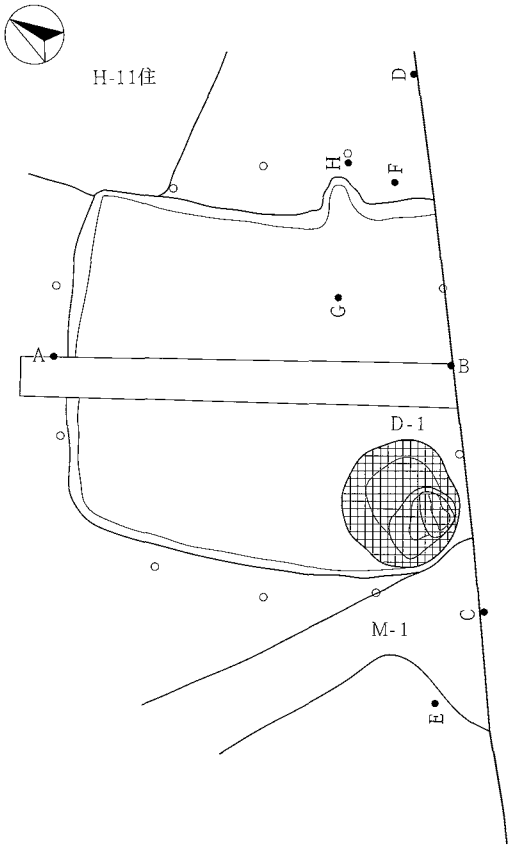
	1～10g	91～100g	901～1000g
弥生土器 甕・壺系	●	●	●
弥生土器 坏系	■	■	
無文土器 甕・壺系	○	○	
無文土器 坏系	□		

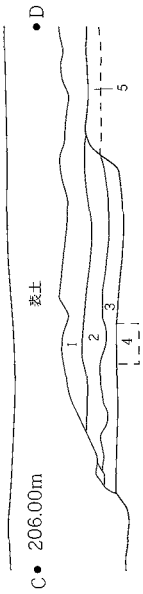
一括 ○○

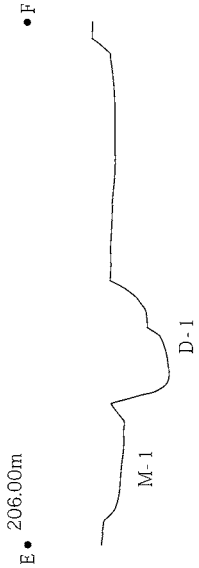
0　4 m

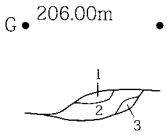
0　4 m

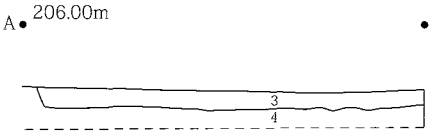
第7図　Y－1号住居址

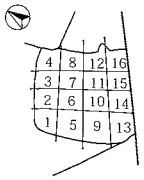






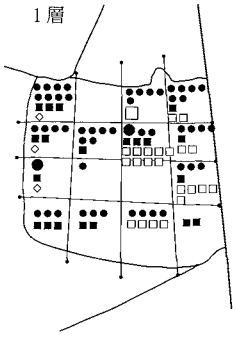


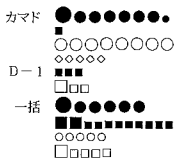




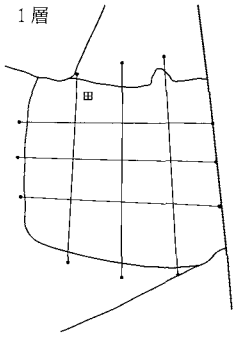
遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	焼土
H－1住	1	10YR3/3	暗褐色土層	○	△	※	※	※		
	2	10YR3/3	暗褐色土層	○	△	△	△	△		
	3	10YR3/4	暗褐色土層	○	△	△	○	△		
	4	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	○	○	○	○		
	5	10YR5/3	にぶい黄褐色土層	○	○	△	△	○		
カマド	1	5YR3/2	暗赤褐色土層	△	△	※	※	※	※	※
	2	5YR3/4	暗赤褐色土層	△	△	△	△	△	△	○
	3	5YR2/1	黒褐色土層	△	△	※	※			

土器重量分布
1層

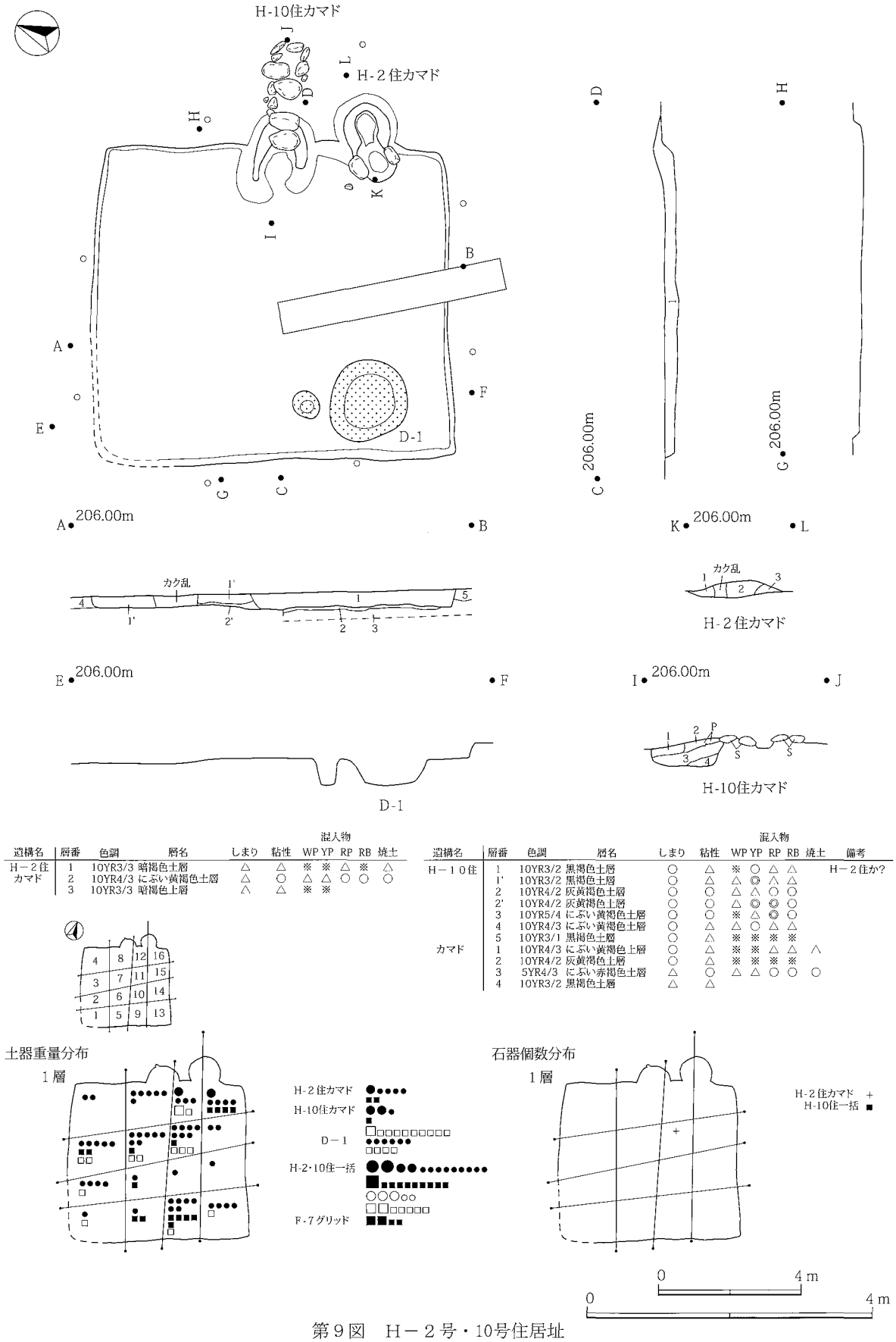




石器個数分布
1層



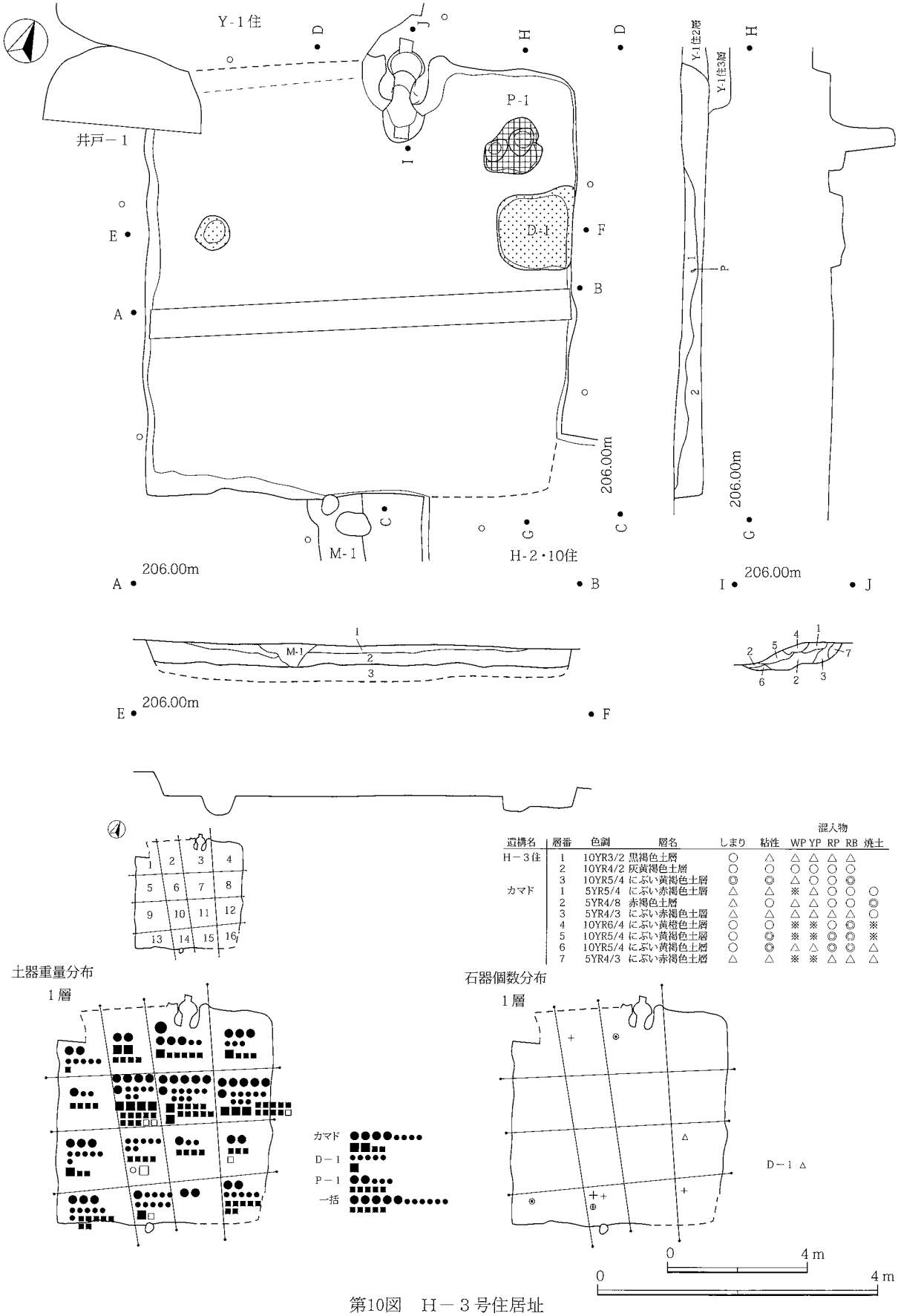
第８図　Ｈ－１号住居址



遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	焼土
H－2住カマド	1	10YR3/3	暗褐色土層	△	△	※	※	△	※	△
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	△	○	△	△	○	○	○
	3	10YR3/3	暗褐色土層	△	△	※	※			

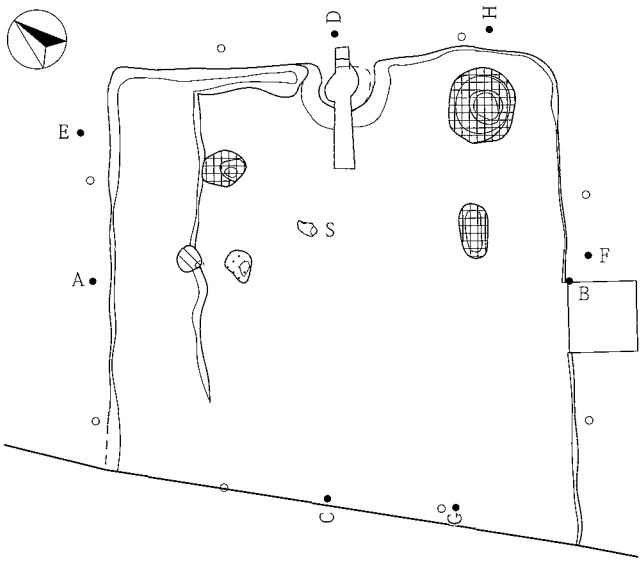
遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	焼土	備考
H－10住	1	10YR3/2	黒褐色土層	○	△	※	○	△	△		H－2住か?
	1'	10YR3/2	黒褐色土層	○	△	△	◎	△	△		
	2	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	○	△	△	○	○		
	2'	10YR4/2	灰黄褐色上層	○	○	△	◎	◎	○		
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	○	○	※	△	◎	○		
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	○	△	△	○	△	△		
	5	10YR3/1	黒褐色土層	○	△	※	※	※	※		
カマド	1	10YR4/3	にぶい黄褐色上層	○	△	※	※	△	△	△	
	2	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	△	※	※	※	※		
	3	5YR4/3	にぶい赤褐色土層	△	○	△	△	○	○	○	
	4	10YR3/2	黒褐色土層	△	△						

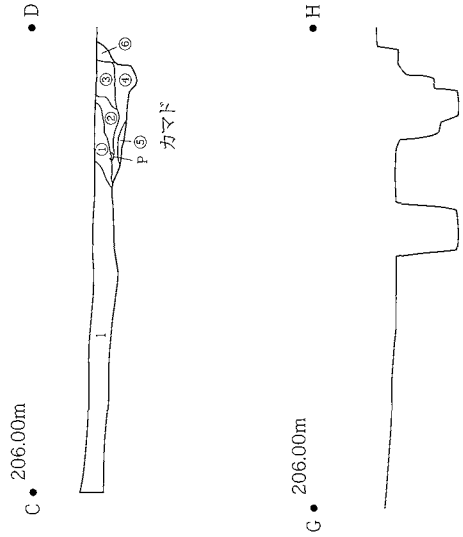
第９図　Ｈ－２号・10号住居址

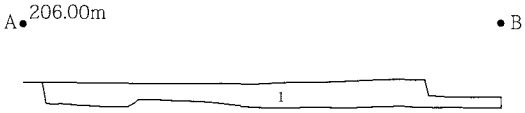


遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	焼土
H－3住	1	10YR3/2	黒褐色土層	○	△	△	△	△	△	
	2	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	○	○	○	○	○	
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	◎	◎	△	○	○	◎	
カマド	1	5YR5/4	にぶい赤褐色土層	△	△	※	△	○	○	○
	2	5YR4/8	赤褐色土層	△	○	△	△	○	○	◎
	3	5YR4/3	にぶい赤褐色土層	△	△	△	△	△	△	○
	4	10YR6/4	にぶい黄橙色土層	○	○	※	※	○	◎	※
	5	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	○	◎	※	※	◎	◎	※
	6	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	○	◎	△	△	◎	◎	△
	7	5YR4/3	にぶい赤褐色土層	△	△	※	※	△	△	△

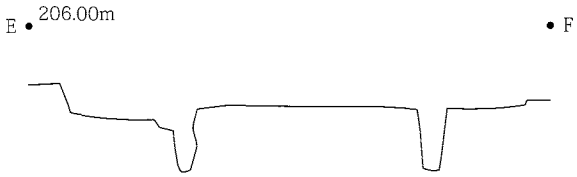
第10図　H－3号住居址

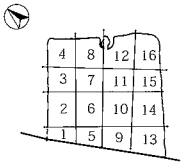






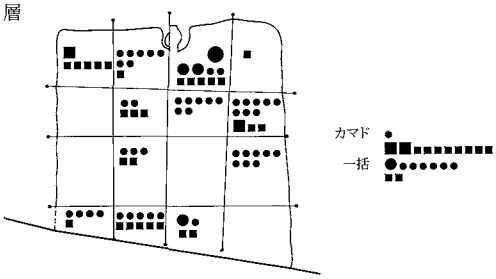
遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	焼土
H－5住	1	10YR3/2	黒褐色土層	○	△	△	○	△	△	
カマド	①	10YR6/4	にぶい黄橙色土層	○	○	※	△	◎	◎	△
	②	10YR6/6	明黄褐色土層	◎	◎	△	△	◎	◎	○
	③	10YR6/4	にぶい黄橙土層	○	○	△	△	◎	◎	○
	④	10YR3/1	黒褐色土層	○	△	△	△	○	◎	△
	⑤	10YR2/1	黒色土層	○	△	※	※	△	△	
	⑥	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	△	△	△	△	△	





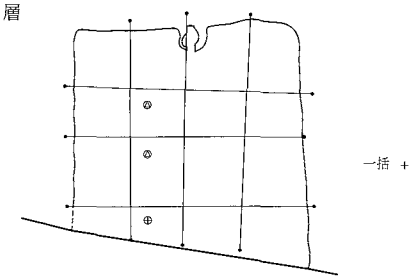
土器重量分布

1層

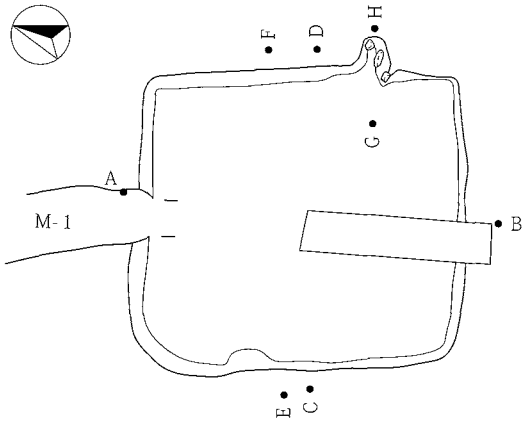


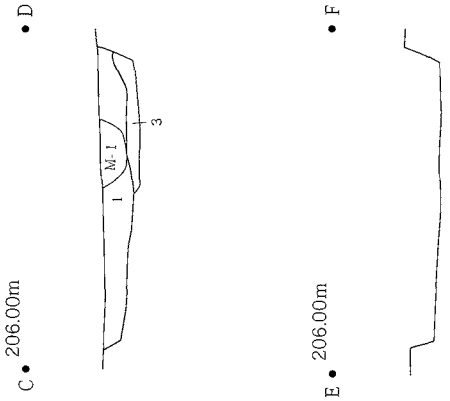
石器個数分布

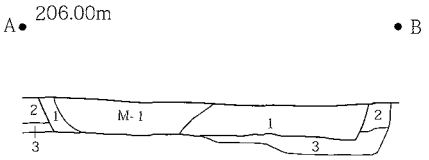
1層

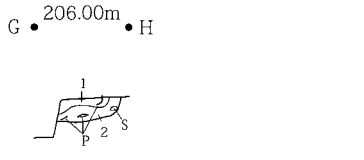


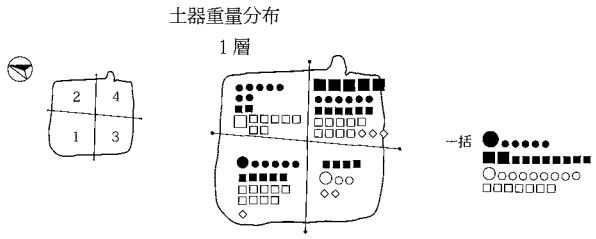
第11図　H－5号住居址



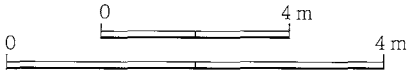




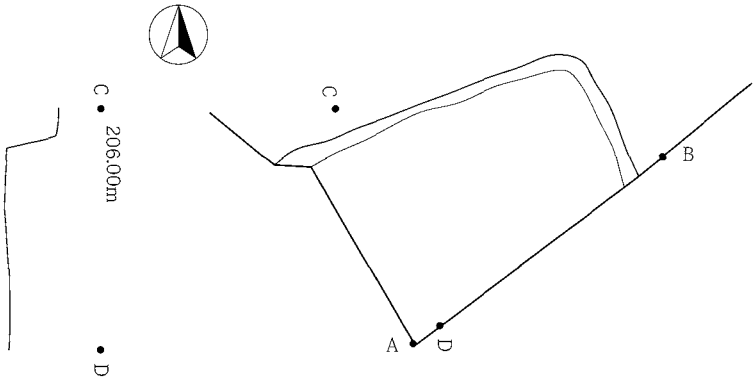


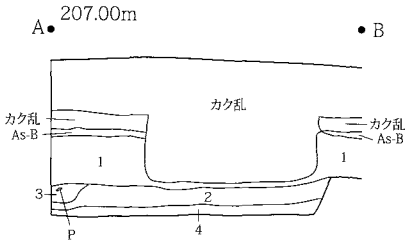


遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	焼土
H－6住	1	10YR3/3	暗褐色土層	◎	△	△	△	△	△	
	2	10YR3/2	黒褐色土層	○	△	※	※	※	※	
	3	10YR3/1	黒褐色土層	○	△	※	※	△	△	
カマド	1	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	○	△	※	※	△	△	△
	2	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	△	※	※	※	※	△



第12図　H－6号住居址

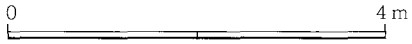




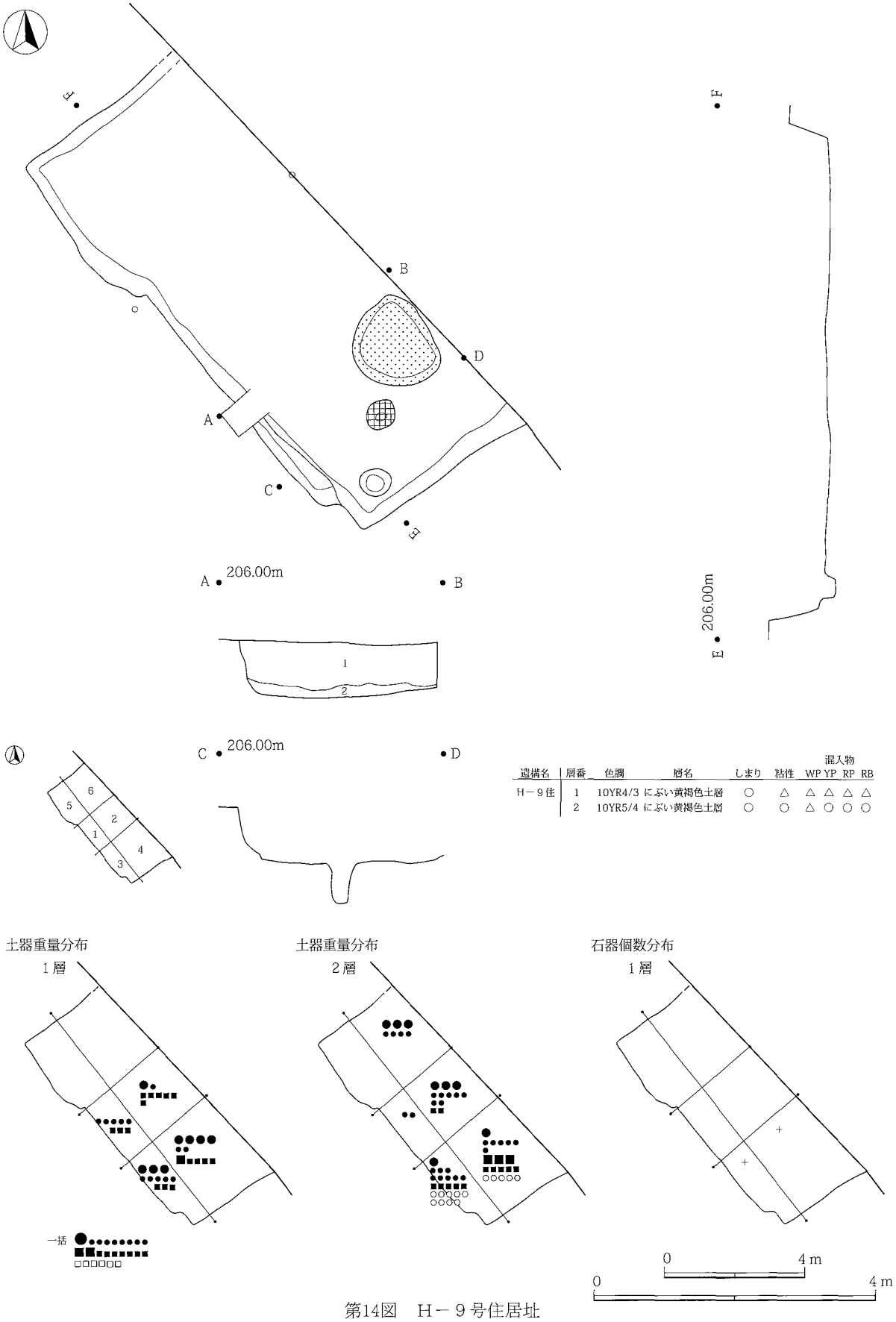
遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB
H－7住	1	10YR5/3	にぶい黄褐色土層	○	△	※	※		
	2	10YR5/2	灰黄褐色土層	○	△	※	※	※	
	3	10YR4/1	褐灰色土層	○	△	※	※	△	
	4	10YR6/3	にぶい黄橙色土層	○	○	※	※	△	△

土器重量

一括

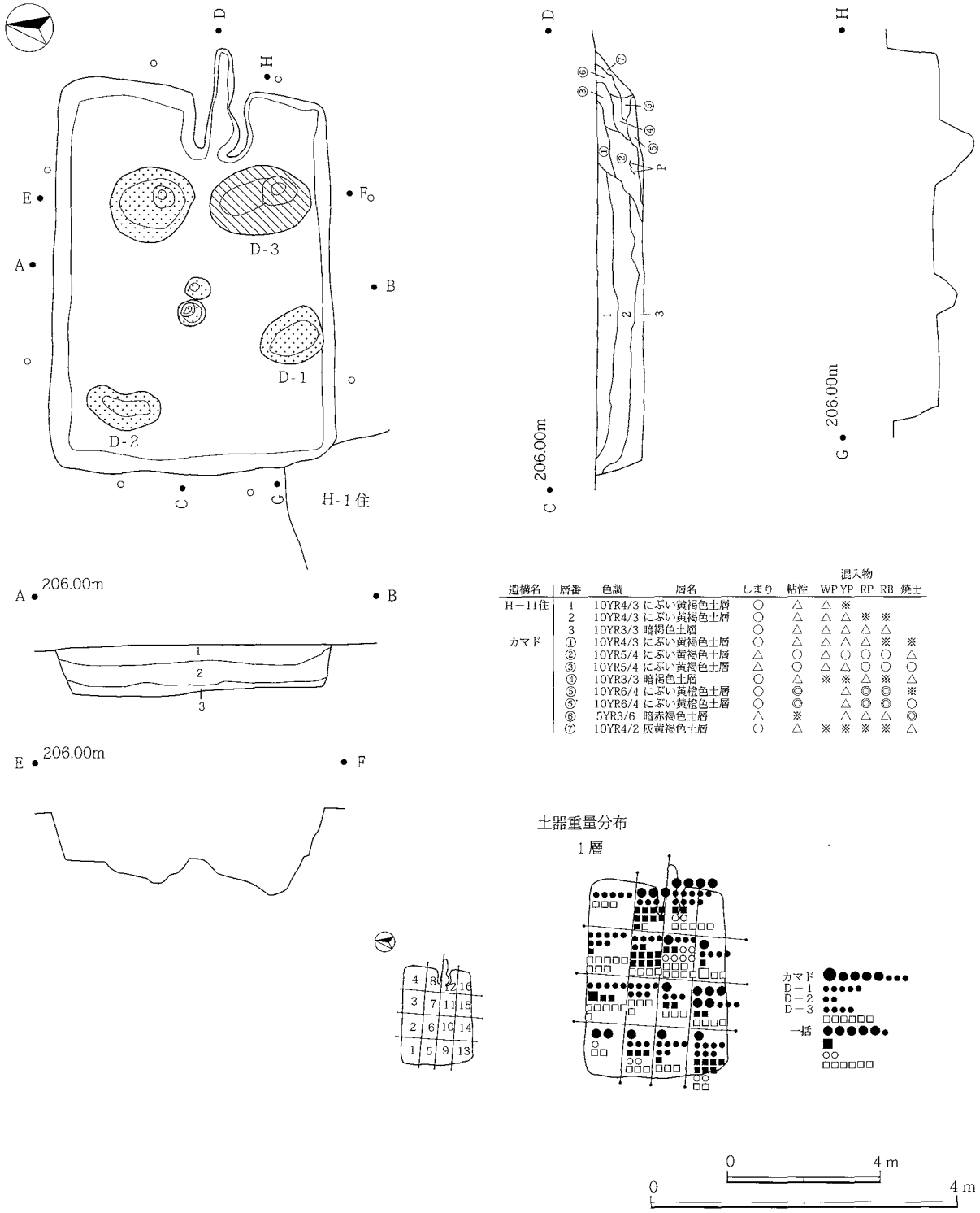


第13図　H－7号住居址



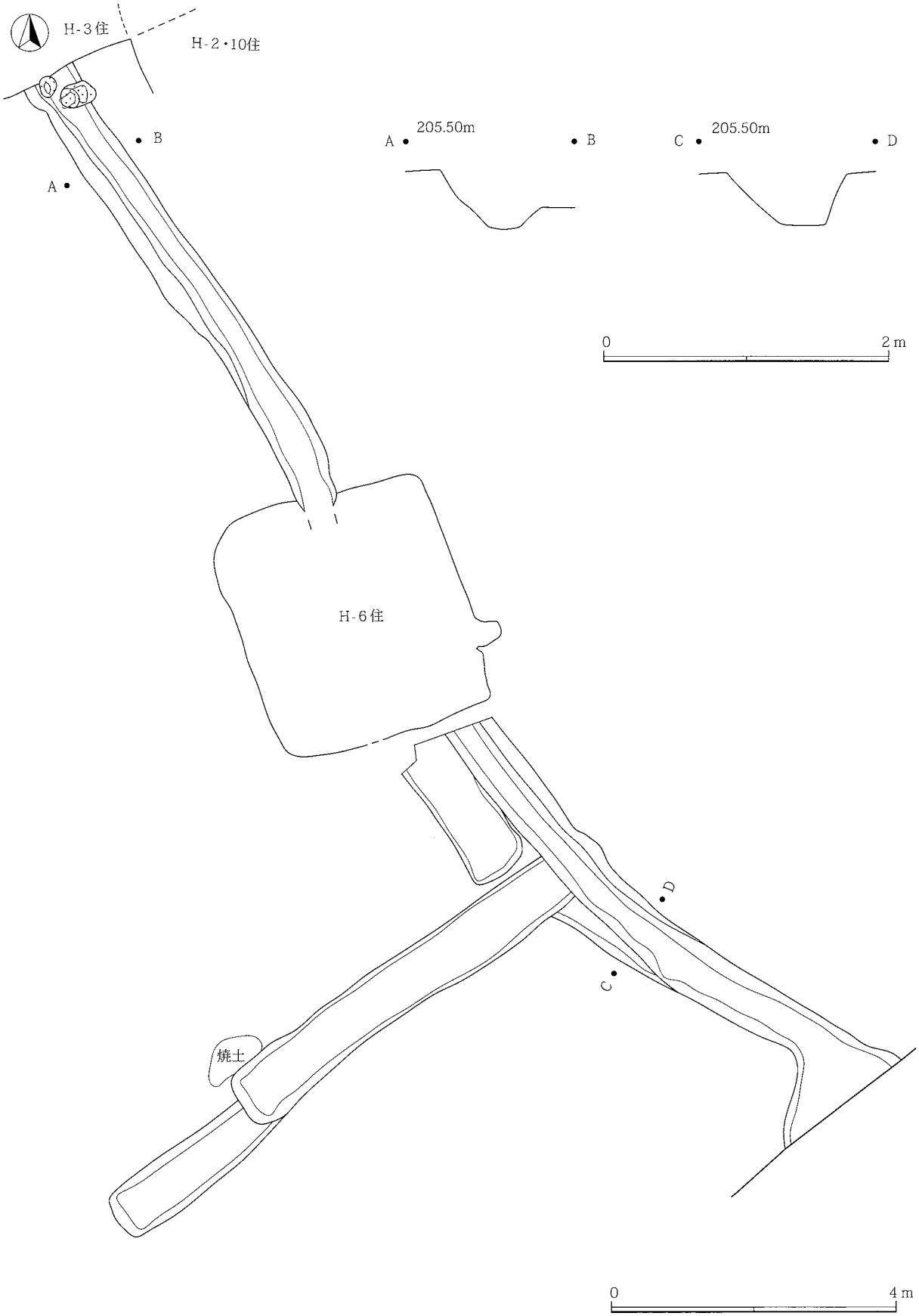
遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB
H－9住	1	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	○	△	△	△	△	△
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	○	○	△	○	○	○

第14図　H－9号住居址

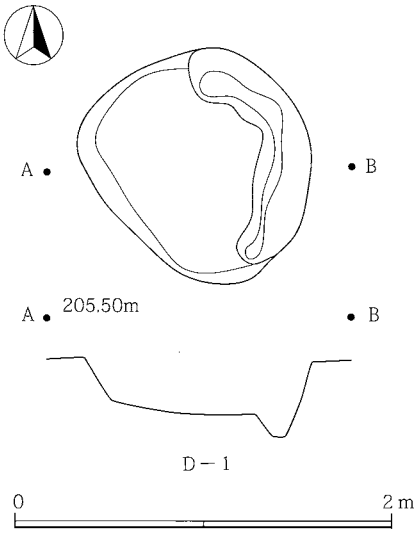


遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	焼土
H－11住	1	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	○	△	△	※			
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	○	△	△	△	※	※	
	3	10YR3/3	暗褐色土層	○	△	△	△	△	△	
カマド	①	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	○	△	△	△	△	※	※
	②	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	△	○	△	○	○	○	△
	③	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	△	○	△	△	○	○	○
	④	10YR3/3	暗褐色土層	○	△	※	※	△	※	△
	⑤	10YR6/4	にぶい黄橙色土層	○	◎		△	◎	◎	※
	⑤'	10YR6/4	にぶい黄橙色土層	○	◎		△	◎	◎	○
	⑥	5YR3/6	暗赤褐色土層	△	※		△	△	△	◎
	⑦	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	△	※	※	※	※	△

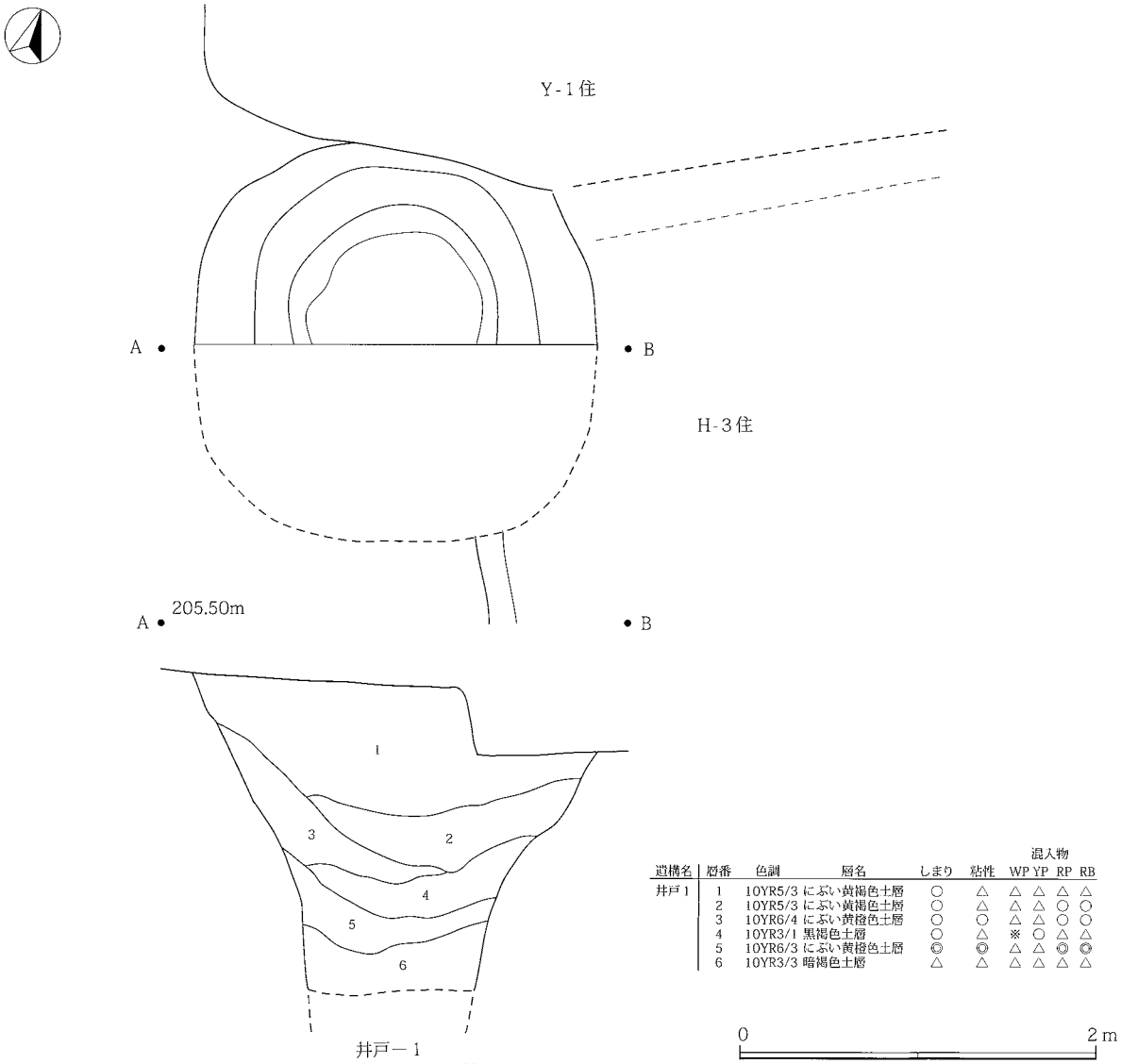
第15図　H－11号住居址



第16図　1号溝

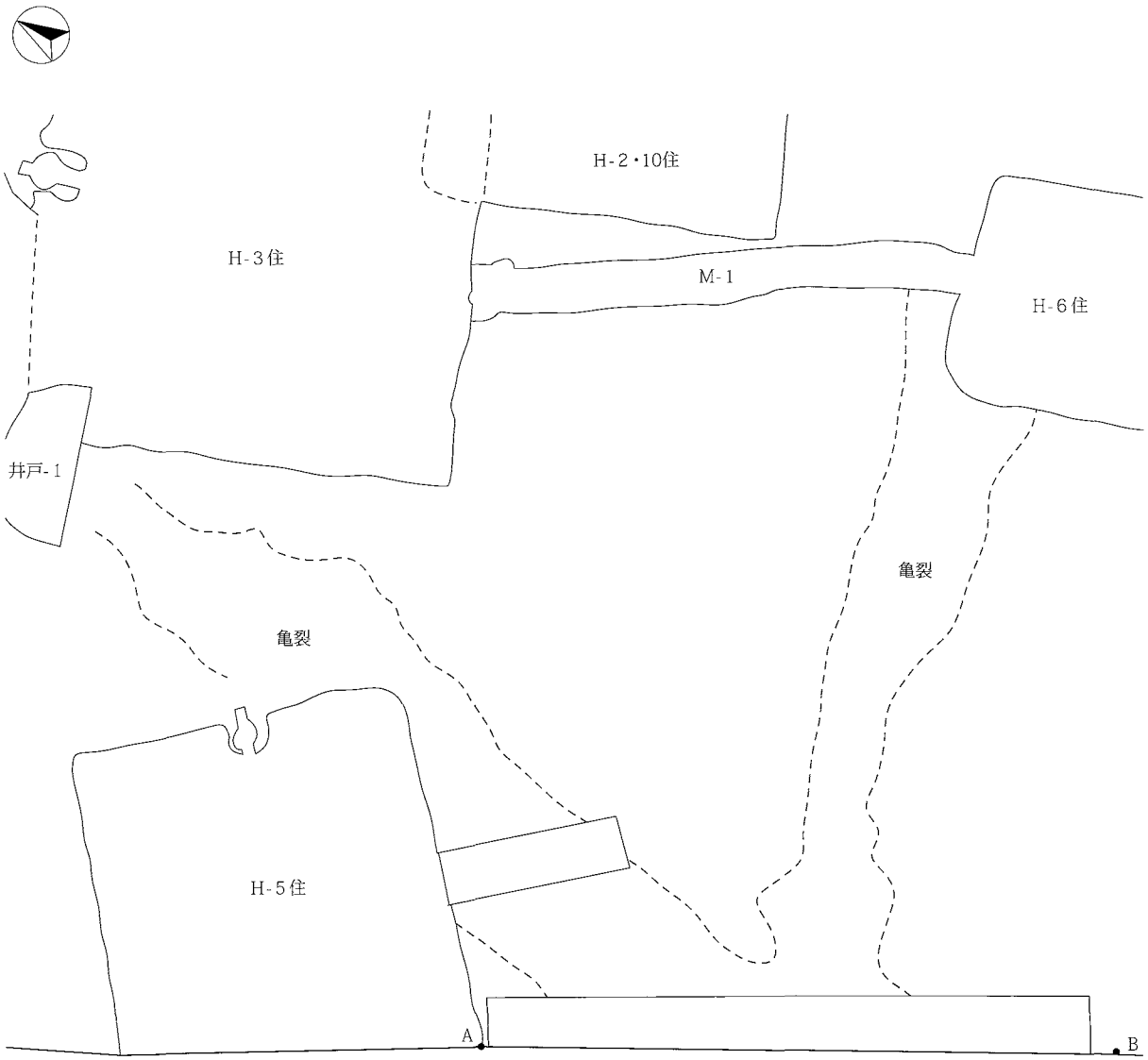


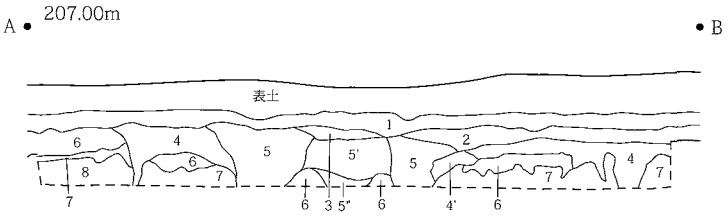
第17図　1号土坑



遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB
井戸1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色土層	○	△	△	△	△	△
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色土層	○	△	△	△	○	○
	3	10YR6/4	にぶい黄橙色土層	○	○	△	△	○	○
	4	10YR3/1	黒褐色土層	○	△	※	○	△	△
	5	10YR6/3	にぶい黄橙色土層	◎	◎	△	△	◎	◎
	6	10YR3/3	暗褐色土層	△	△	△	△	△	△

第18図　1号井戸

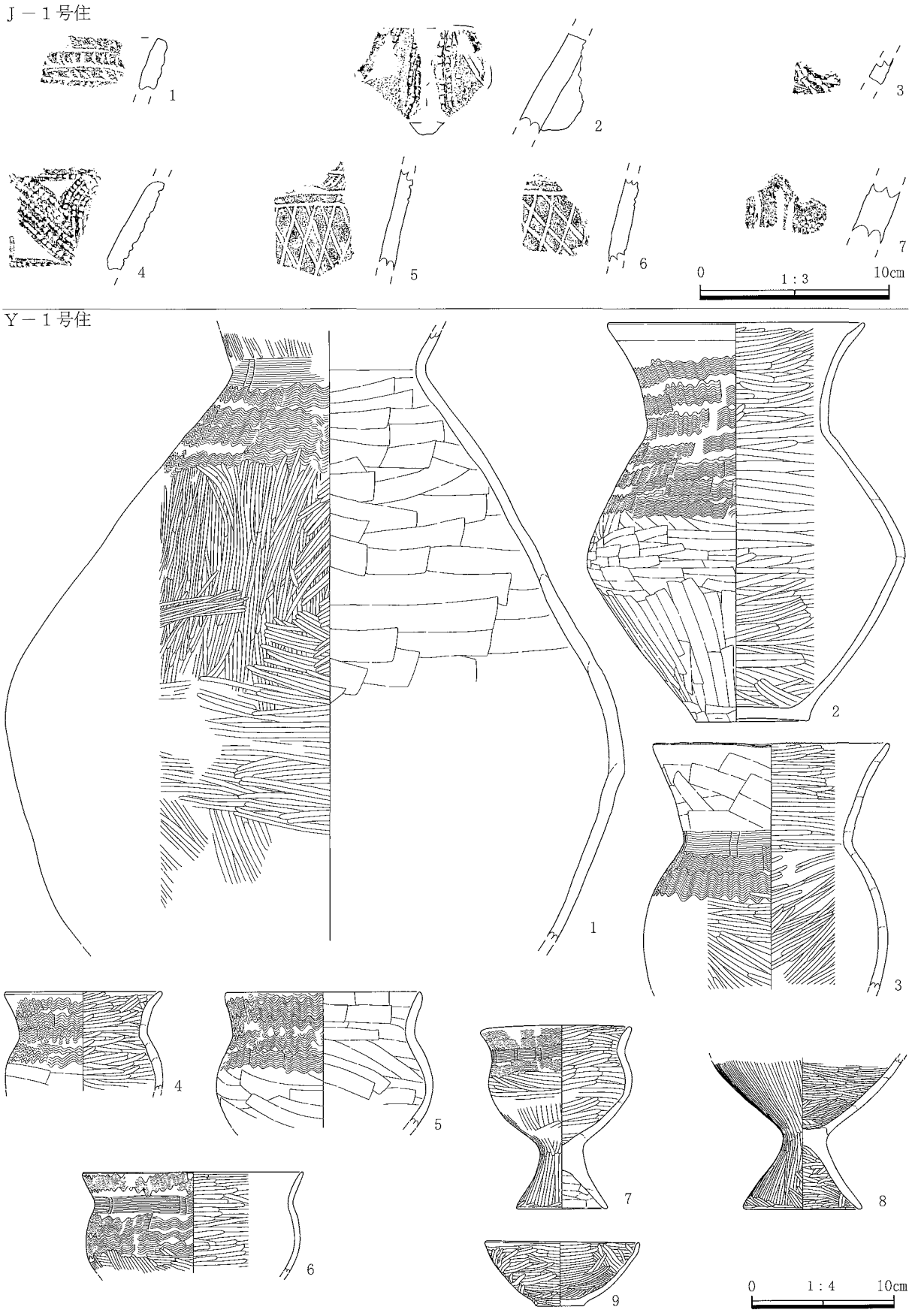




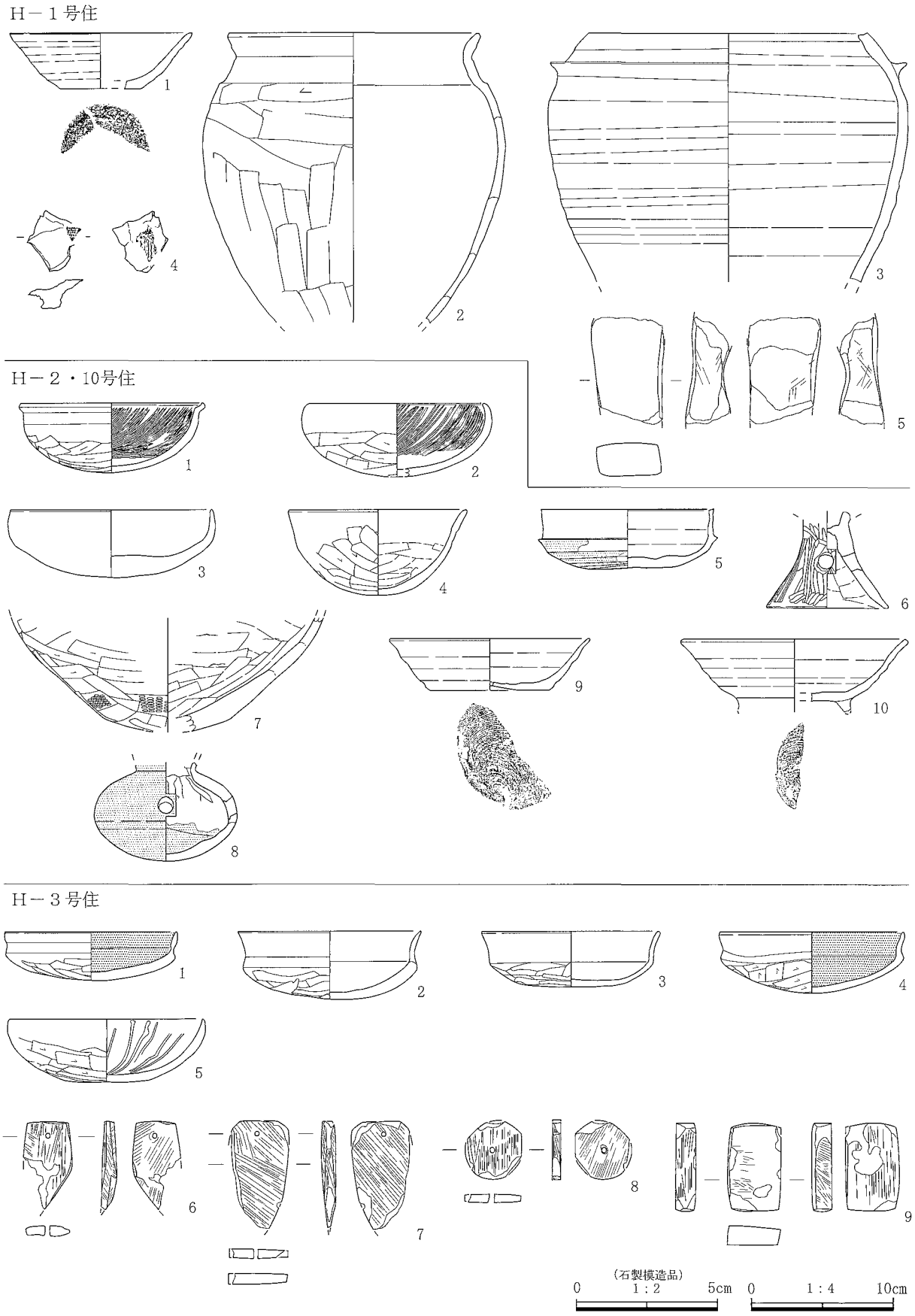
遺構名	層番	色調	層名	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	備考
亀裂	1	10YR3/1	黒褐色土層	○	△	※	※		※	
	2	10YR3/2	黒褐色土層	○	△	※	※	※	※	
	3	10YR3/2	黒褐色土層	○	△	※	○	※	※	
	4	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	△	※	△	△	△	
	4'	10YR4/2	灰黄褐色土層	○	△	※	※	※	※	
	5	10YR2/1	黒色土層	◎	△	※	△			亀裂の黒色土
	5'	10YR2/1	黒色土層	◎	△	※	※			
	5"	10YR2/1	黒色土層	◎	△	※	△	△	△	
	6	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	◎	○		△	◎	◎	
	6'	10YR4/2	灰黄褐色土層	◎	△	※	△	△	△	
	7	10YR7/6	明黄褐色土層	△	○		◎	◎	◎	ＹＰとＲＢの層
	8	10YR8/8	黄橙色土層	◎	◎			◎	◎	ローム層

0　5 m

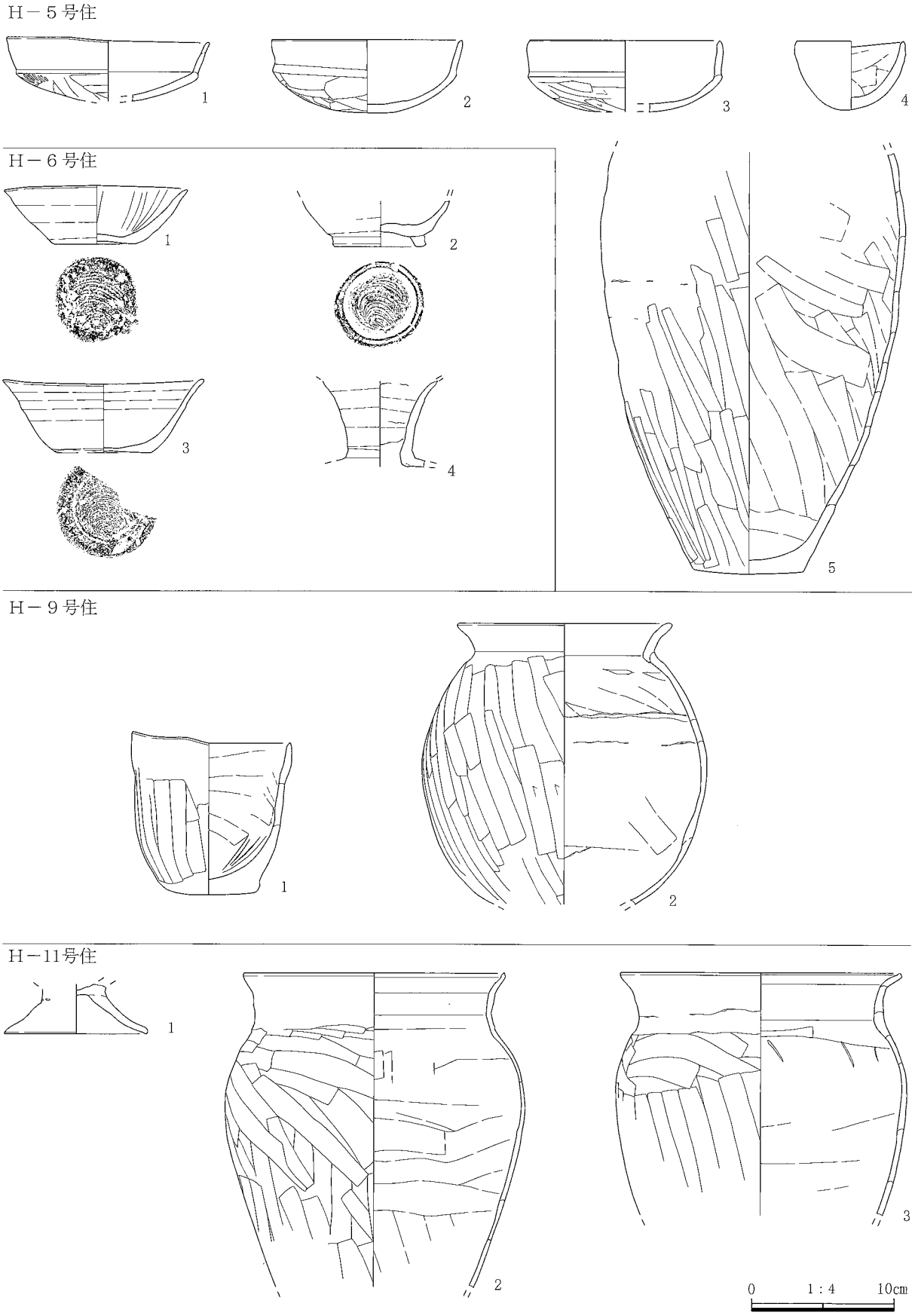
第19図　亀裂（地震による断層）



第20図　J－1・Y－1号住居址出土遺物

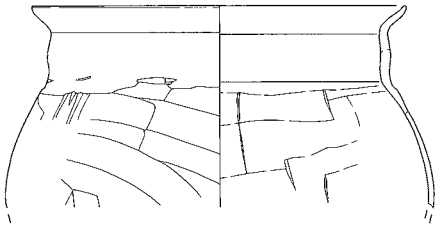


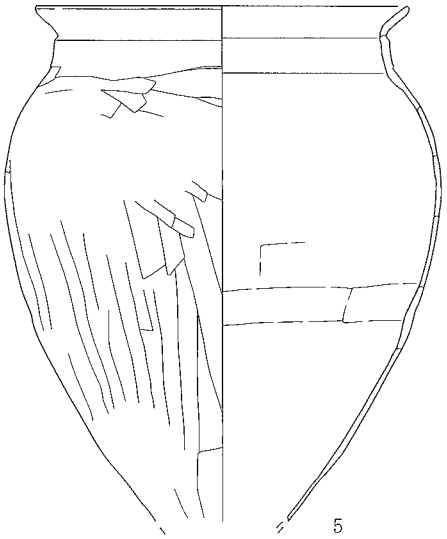
第21図　H－１・２・10・３号住居址出土遺物

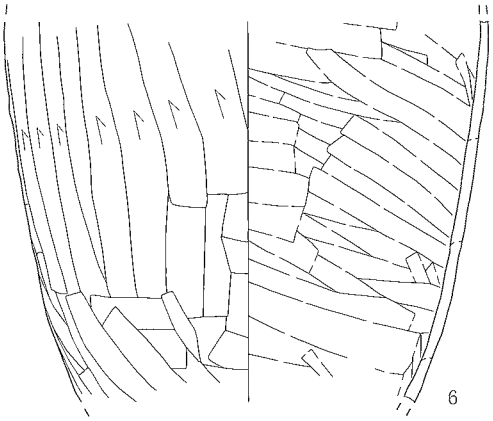


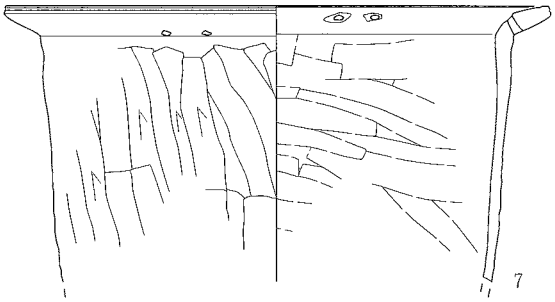
第22図　H－5・6・9・11号住居址出土遺物

H－11号住

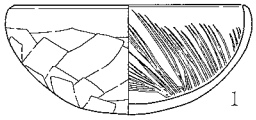


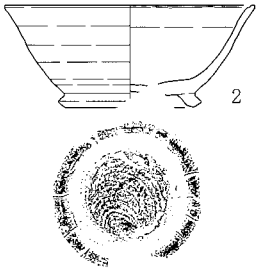


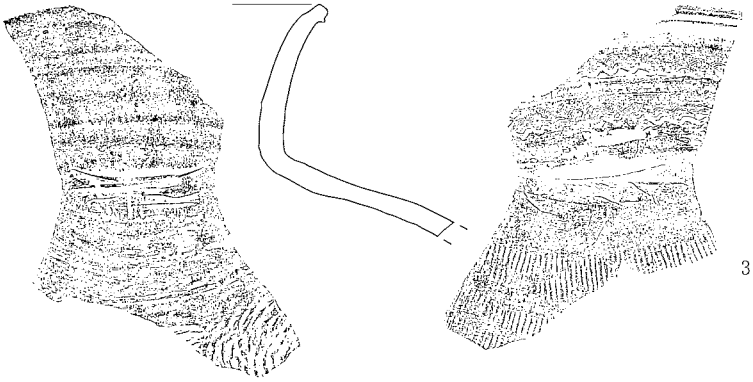


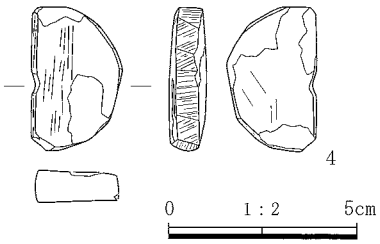


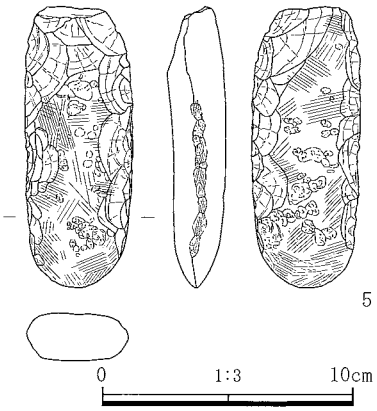
遺構外











0　1：4　10cm

第23図　H－11号住居址・遺構外出土遺物

下原・賽神Ⅱ遺跡　遺物観察表

J－1号住居址

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	縄文土器 深鉢	10区1層	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい黄橙色　③褐色粒・黒色粒混入　④口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線と連続爪形文。爪形文の間隔・角度が一定せず、全体的に稚拙な作り。中期前半？
2	縄文土器 深鉢	8区1層	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい黄褐色　③白色粒・雲母混入　④口縁部破片	波状口縁の波頂部より隆帯を垂下させ区画。口縁部と隆帯に沿って角押文。阿玉台式。
3	縄文土器 深鉢	7区1層	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通　②橙色　③褐色粒混入　④胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線と結節沈線による区画。中期前半。
4	縄文土器 深鉢	2区1層	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい橙色　③白色粒・褐色粒混入　④胴部破片	結節沈線により横位・斜位・渦巻状に区画。三角形の陰刻文。前期終末～中期初頭？
5	縄文土器 深鉢	6区1層	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい橙色　③褐色粒・黒色粒・角閃石混入　④胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線。棒状又は板状工具による刺突文と格子目文。6と同一個体？中期前半。
6	縄文土器 深鉢	7区1層	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい橙色　③褐色粒・黒色粒・角閃石混入　④胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線。棒状又は板状工具による格子目文。5と同一個体？中期前半。
7	縄文土器 深鉢	7区1層	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通　②橙色　③白色粒・角閃石混入　④胴部破片	隆帯と半截竹管状工具により縦位に区画。一部に縄文（不明瞭）。勝坂式？

Y－1号住居址

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	弥生土器 壷	1区2層 5区2層 10区2層	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい褐～明褐色　③白色粒・黒色粒混入　④口縁部下位～胴部下位	外面　口縁部下位篦磨き、頸部簾状文、胴部上位波状文、中位～下位篦磨き。 内面　口縁部下位～胴部下位篦撫で。
2	弥生土器 甕	2区2層 3区1層 14区2層	口径　18.0 底径　8.0 器高　28.1	①普通　②褐色　③白色粒・黒色粒・角閃石混入　④4/5	外面　口縁部上位横撫で、下位～胴部上位波状文、中位～下位篦撫で、下端部～底部篦削り。 内面　口縁部～底部篦磨き。
3	弥生土器 甕	2区2層	口径　16.3 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい褐色　③白色粒・石英混入　④口縁部～胴部中位　2/3	外面　口唇部縄文、口縁部篦撫で、頸部簾状文、胴部上位波状文、中位篦磨き。 内面　口縁部～胴部篦撫で後篦磨き。
4	弥生土器 小形甕	2区1層 16区2層	口径　10.9 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい赤褐色　③白色粒・角閃石混入　④口縁部～胴部上位　7/8	外面　口唇部横撫で、口縁部～胴部上位波状文、中位篦撫で。 内面　口縁部～胴部篦磨き。
5	弥生土器 台付甕	14区2層	口径　13.6 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい黄褐～灰黄褐色　③白色粒・黒色粒混入　④口縁部～胴部中位	外面　口縁部～胴部上位波状文、中位篦撫で。 内面　口縁部～胴部篦撫で。
6	弥生土器 台付甕	6区2層 9区1層 9区2層	口径　15.5 底径　－ 器高　－	①普通　②明赤褐～暗褐色　③白色粒・黒色粒混入　④口縁部～胴部中位　1/2	外面　口縁部波状文、頸部簾状文、胴部上位波状文、中位篦磨き。 内面　口縁部～胴部篦磨き。
7	弥生土器 台付甕	3区2層	口径　10.4 底径　6.3 器高　13.0	①普通　②にぶい赤褐～にぶい褐色　③白色粒・石英混入　④2/3	外面　口縁部波状文、頸部簾状文、胴部上位波状文、中位～台部篦磨き。 内面　口縁部～底部篦磨き、台部篦撫で。
8	弥生土器 高坏	13区2層	口径　－ 底径　7.9 器高　－	①普通　②明赤褐～にぶい黄褐色　③白色粒・褐色粒混入　④坏体部1/4、脚部	外面　体部～脚部篦磨き。 内面　体部～底部篦磨き、脚部篦磨き。
9	弥生土器 鉢	2区2層	口径　10.7 底径　3.3 器高　4.6	①普通　②にぶい褐色　③白色粒・黒色粒混入　④ほぼ完形	外面　口縁部～底部篦磨き。 内面　口縁部～底部篦磨き。

H－1号住居址

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	一括	口径　12.8 底径　5.7 器高　3.9	①やや不良／酸化　②にぶい黄橙色　③褐色粒・黒色粒混入　④2/5	外面　轆轤成形、底部調整摩滅のため不明瞭。 内面　轆轤成形。
2	土師器 甕	竈	口径　17.8 底径　－ 器高〈20.3〉	①やや不良　②にぶい橙色　③白色粒・黒色粒・角閃石混入　④口縁部～胴部下位　2/5	外面　口辺部横撫で、胴部篦削り。 内面　口辺部横撫で、胴部篦撫で？
3	須恵器 羽釜	竈	口径(19.8) 底径　－ 器高〈17.4〉	①普通／酸化　②灰褐色　③白色粒・褐色粒混入　④口縁部～胴部中位　1/4	外面　轆轤成形、鍔貼り付け。 内面　轆轤成形。
4	瓦 平瓦	一括	長さ〈4.3〉 幅　〈3.9〉 厚さ〈2.2〉	①良好／還元　②灰色　③黒色粒混入　④破片	上面　布目。 下面　縄目叩き。 重さ　13.0g
5	石製品 砥石	8区1層	長さ（7.5） 幅　5.1 厚さ　2.3	重さ144.7ｇ	

第２表　J-1・Y-1・H-1号住居址出土遺物観察表

H－2・10号住居址

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	F7グリッド	口径　12.7 底径　－ 器高　4.9	①普通　②にぶい赤褐色　③白色粒・黒色粒・角閃石混入　④ほぼ完形	外面　口縁部横撫で、体部上位撫で、下位～底部篦削り。 内面　口縁部～体部放射状篦磨き、底部篦撫で。
2	土師器 坏	一括	口径　12.3 底径　－ 器高　5.2	①普通　②にぶい赤褐色　③白色粒・褐色粒混入　④1/2	外面　口縁部横撫で、体部～底部篦削り。 内面　口縁部～体部放射状篦磨き、底部撫で。
3	土師器 坏	一括	口径　14.3 底径　－ 器高　4.7	①普通　②にぶい橙色　③褐色粒混入　④4/5	外面　口辺部横撫で又は篦撫で、体部篦削り（摩滅のため不明瞭）。 内面　口辺部横撫で、体部篦撫で？
4	土師器 坏	一括 周辺	口径　12.6 底径　－ 器高　6.0	①普通　②にぶい黄橙色　③白色粒・褐色粒混入　④1/2	外面　口辺部横撫で、体部～底部篦削り。 内面　篦撫で。
5	須恵器 坏	一括	口径　12.2 底径　－ 器高　4.1	①普通／還元　②暗青灰色　③白色粒・白色礫混入　④3/4	外面　轆轤成形、体部篦削り。自然釉付着。 内面　轆轤成形。
6	土師器 高坏	一括	口径　－ 底径（8.6） 器高〈6.8〉	①普通　②橙色　③褐色粒混入　④脚部　1/6	外面　磨き。透孔３ヶ所。 内面　篦撫で。
7	土師器 甕	一括	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通　②にぶい赤褐色　③白色粒・褐色粒・角閃石・礫混入　④胴部下位～底部　1/6	外面　胴部篦削り、下位に籠目が残存する。底部篦削り。 内面　胴部下位～底部篦撫で。
8	須恵器 甕	一括	口径　－ 底径　－ 器高〈6.9〉	①良好／還元　②暗灰色　③白色粒・白色礫混入　④1/3	外面　篦削り後一部に波状文（自然釉のため不明瞭）。全面に自然釉付着。 内面　一部に篦撫で。部分的に自然釉付着。
9	須恵器 坏	12区1層	口径（14.2） 底径（8.4） 器高　3.6	①やや不良／弱還元　②灰白色　③黒色粒・礫混入　④2/5	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。 内面　轆轤成形。
10	須恵器 坏	H－10 号住竈 11区1層 D－1	口径（16.0） 底径　－ 器高〈5.1〉	①やや不良／弱還元　②灰白色　③黒色粒・白色礫混入　④1/3	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。

H－3号住居址

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	6区1層 7区1層	口径　12.2 底径　－ 器高　3.4	①普通　②黒褐色　③白色粒・礫・雲母混入　④1/2	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　口辺部横撫で。黒色処理。
2	土師器 坏	竈 3区1層	口径　13.0 底径　－ 器高　4.8	①普通　②赤褐色　③白色粒・黒褐粒・礫混入　④3/5	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　口辺部～体部上位横撫で、体部中位～下位篦撫で。
3	土師器 坏	6区1層	口径　12.6 底径　－ 器高　3.9	①普通　②にぶい赤褐色　③白色粒・褐色粒混入　④2/5	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　口辺部～体部上位横撫で、体部中位～下位篦撫で？
4	土師器 坏	4区1層	口径（13.0） 底径　－ 器高　4.3	①普通　②黒褐色　③褐色粒・礫・雲母混入　④2/5	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　口辺部横撫で。黒色処理。
5	土師器 坏	8区1層	口径　13.6 底径　－ 器高　4.4	①普通　②明赤褐色　③白色粒・角閃石・礫混入　④1/4	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　横撫で又は篦撫で後、放射状磨き。
6	石製模造品 剣形	D－1	長さ（3.1） 幅　1.7 厚さ　0.35	重さ3.3ｇ	
7	石製模造品 剣形	12区1層	長さ（3.75） 幅　2.0 厚さ　0.35	重さ5.7ｇ	
8	石製模造品 有孔円盤	3区1層	長さ　2.05 幅　1.9 厚さ　0.3	重さ2.1ｇ	
9	石製模造品 方形板	13区1層	長さ　3.1 幅　1.9 厚さ　0.7	重さ8.7ｇ	

第３表　H-~~1~~ 2・10・3号住居址出土遺物観察表

H－5号住居址

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	4区1層	口径　14.3 底径　－ 器高〈4.5〉	①普通　②明赤褐色　③褐色粒混入　④口縁部～体部下位　9/10	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　口縁部～体部上位横撫で、体部中位～下位篦撫で？
2	土師器 坏	竈	口径　13.4 底径　－ 器高　5.1	①普通　②にぶい赤褐色　③褐色粒・角閃石混入　④2/3	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　口縁部～体部上位横撫で、体部中位～下位篦撫で。
3	土師器 坏	15区1層	口径（13.3） 底径　－ 器高〈5.0〉	①普通　②橙色　③褐色粒・雲母・片岩混入　④口縁部～体部下位　1/3	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　口縁部～体部上位横撫で、体部中位～下位篦撫で。
4	土師器 鉢	竈	口径　7.5 底径　－ 器高　4.8	①普通　②にぶい赤褐色　③褐色粒・黒色粒混入　④ほぼ完形	手捏ね。 外面　口辺部横撫で、体部無調整又は一部篦撫で。 内面　篦撫で。
5	土師器 甕	12区1層	口径　－ 底径　7.8 器高〈29.6〉	①普通　②にぶい褐色　③褐色粒・白色礫混入　④胴部上位～底部　1/2	外面　胴部篦削り、底部篦削り。 内面　篦撫で。

H－6号住居址

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	2区1層	口径　12.9 底径　5.6 器高　4.1	①やや不良／弱還元　②褐灰色　③白色粒・白色礫混入　④ほぼ完形	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。 内面　轆轤成形、縦位～斜位の撫で又は磨き。
2	須恵器 坏	1区1層	口径　－ 底径　6.4 器高〈3.2〉	①普通／酸化　②にぶい橙色　③褐色粒・雲母混入　④体部下位～底部　1/5	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。
3	須恵器 坏	4区1層	口径（14.2） 底径（6.4） 器高　5.1	①普通／酸化　②橙色　③褐色粒・雲母混入　④2/5	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。 内面　轆轤成形。
4	須恵器 壷	3区1層	口径　－ 底径　－ 器高〈6.0〉	①良好／還元　②灰色　③白色粒・礫混入　④頸部～胴部最上位	外面　篦撫で？ 内面　篦撫で？

H－9号住居址

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 鉢	4区2層	口径（11.2） 底径　7.0 器高　11.4	①普通　②にぶい橙色　③白色粒・褐色粒混入　④1/2	外面　口辺部横撫で、体部～底部篦削り。 内面　口辺部横撫で、体部篦撫で。
2	土師器 甕	6区2層 一括	口径（15.0） 底径　－ 器高〈19.7〉	①普通　②にぶい黄橙色　③褐色粒・角閃石・礫混入　④口縁部～胴部下位　2/5	外面　口辺部横撫で、胴部篦削り。 内面　口辺部横撫で、胴部篦撫で。

H－11号住居址

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 高坏	8区1層	口径　－ 底径　10.0 器高〈3.5〉	①普通　②にぶい橙色　③褐色粒・黒色粒混入　④坏部下位～脚部　1/6	外面　横撫で。 内面　横撫で又は篦撫で。
2	土師器 甕	竈 12区1層	口径　18.2 底径　－ 器高〈21.9〉	①普通　②橙色　③褐色粒・黒色粒混入　④口縁部～胴部下位　3/5	外面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面　口縁部～頸部篦撫で、胴部篦撫で。
3	土師器 甕	竈 8区1層 10区1層 12区1層 15区1層	口径　19.8 底径　－ 器高〈17.0〉	①普通　②橙色　③白色粒混入　④口縁部～胴部中位　1/5	外面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
4	土師器 甕	竈	口径　19.8 底径－器高 〈10.6〉	①普通　②橙色　③褐色粒・雲母混入　④口縁部～胴部上位　1/8	外面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
5	土師器 甕	竈 7区1層 8区1層 11区1層 12区1層 D－3	口径（19.6） 底径　－ 器高〈27.2〉	①普通　②橙色　③白色粒・褐色粒混入　④口縁部～胴部下位　1/3	外面　口縁部横撫で、頸部横撫で後一部篦撫で、胴部篦削り。 内面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
6	土師器 甑？	竈 8区1層 14区1層	口径　－ 底径　－ 器高〈20.0〉	①普通　②にぶい黄橙色　③褐色粒・礫・雲母混入　④胴部上位～下位　1/5	外面　篦削り。 内面　篦撫で。 7と同一個体の可能性有り。
7	土師器 甑？	竈 8区1層 12区1層 D－3	口径（28.4） 底径　－ 器高〈14.5〉	①普通　②にぶい黄橙色　③褐色粒・礫・雲母混入　④口縁部～胴部上位　1/10	外面　口辺部横撫で、胴部篦削り。 内面　口辺部横撫で、胴部篦撫で。 口辺部と胴部境界付近の折曲部に2個の孔（焼成後）を有する。 6と同一個体の可能性有り。

第４表　H-5・6・9・11号住居址出土遺物観察表

遺構外

番号	器　種	出土位置	法量（cm）	①焼成　②色調　③胎土　④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	J－1号住 1区1層	口径　12.2 底径　－ 器高　5.8	①普通　②明赤褐色　③白色粒・黒色粒・角閃石混入　④ほぼ完形	外面　口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。 内面　口縁部～体部放射状篦磨き、底部撫で。
2	須恵器 坏	西側亀裂 一括	口径（13.2） 底径　7.6 器高　5.4	①やや不良／弱還元　②褐灰色　③白色粒・礫混入　④1/3	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。高台貼り付け。 内面　轆轤成形、口縁部に1条の横位沈線？
3	須恵器 甕	試掘6号 トレンチ	口径　－ 底径　－ 器高〈12.2〉	①普通／還元　②暗青灰色　③白色粒・礫混入　④口縁部～胴部上位破片	外面　頸部波状文、胴部平行叩き。 内面　胴部青海波文。 内外面とも一部に自然釉付着。
4	石製模造品 円盤	D－6 グリッド	長さ　3.8 幅　2.4 厚さ　0.9	重さ15.1ｇ	
5	石器 磨製石斧	Y－1号住 12区1層	長さ　11.1 幅　4.3 厚さ　1.9	重さ176.2ｇ。　側面に敲打痕。敲石として転用か。縄文中期の所産？	

第５表　遺構外出土遺物観察表

Ⅵ　成果と問題点

今回の調査は建物建設部分のみを対象とした小規模なものであったが、狭小な調査範囲に住居址11棟、土坑１基、溝１条、井戸１基、地震に起因すると考えられる亀裂等が確認された。ここでは隣接する下原・賽神遺跡や、蔵畑遺跡・諏訪ノ木遺跡等の調査成果についても触れながら、周辺地域における集落の変遷、亀裂（地震に起因する断層）について若干言及しまとめとしたい。

周辺地域における弥生～平安時代集落の変遷について

前述のように、本遺跡は天神川と猫沢川に挟まれた台地上に所在している。本遺跡の南西には天神川の支流である丸子沢の湧水点がある。本遺跡周辺においては、弥生時代後期以降平安時代まで、断続する期間はあるものの、一定規模の集落が営まれ続けたと考えられる。検出された時期別住居址数は第24図のとおりである。同図からは次のような集落の変遷が看取できる。

○弥生時代後期～古墳時代初頭

湧水点より丸子沢は北東へと流下し、天神川に合流する。両河川の間は舌状台地となっており、この台地上の山峰遺跡においても当該期の住居址が検出されている。一方、丸子沢左岸においても、湧水点西方に位置する諏訪ノ木遺跡において14棟の当該期集落が検出されている。また、諏訪ノ木遺跡から北東方向に延びる台地上では、遺物詳細分布調査において当該期遺物が採集されている。このような状況から、丸子沢両岸に当該期集落は展開していることが想定される。

○古墳時代前期

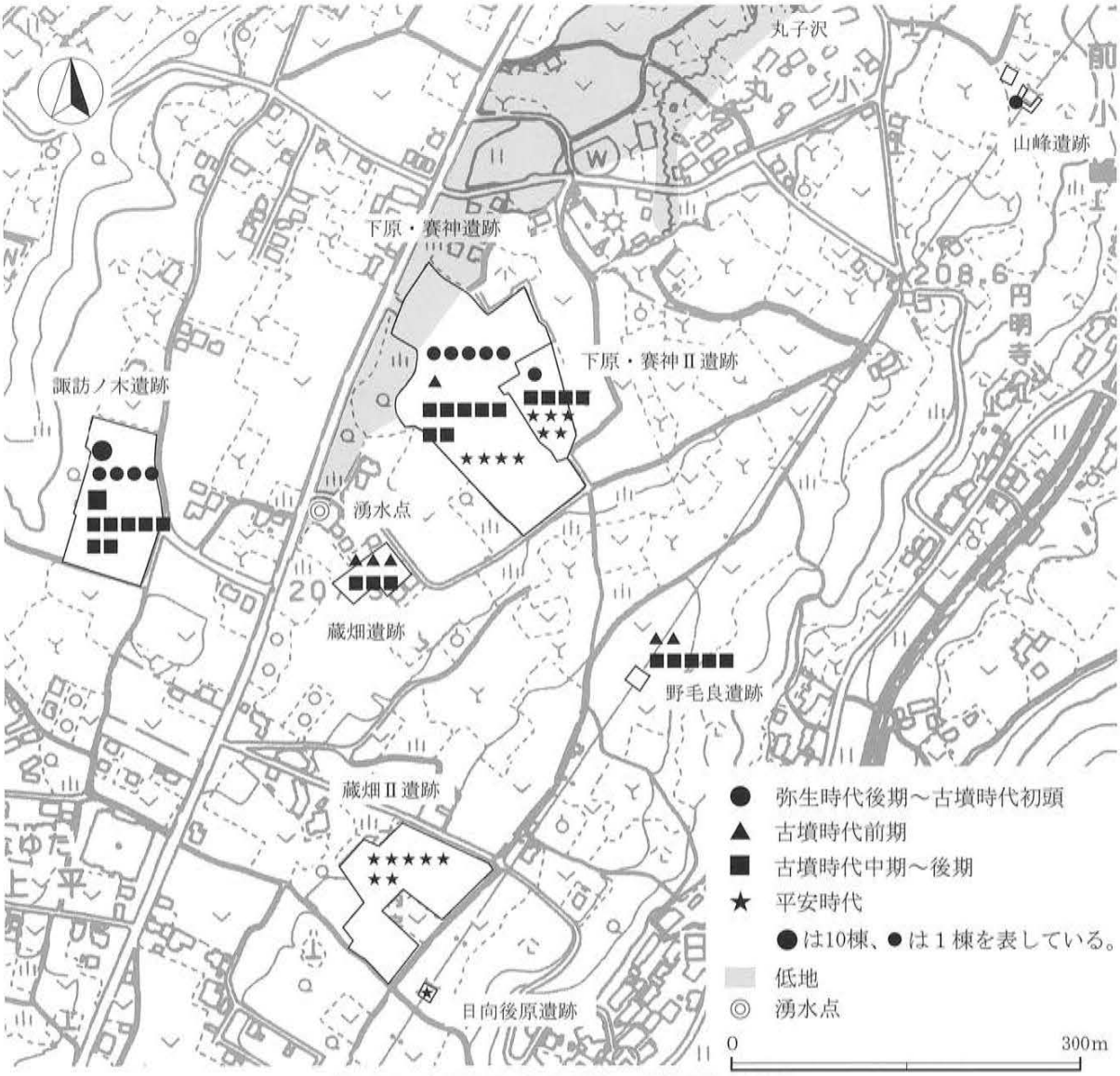
当該期の住居址数は少ない。下原・賽神遺跡、蔵畑遺跡、野毛良遺跡において合計６棟が検出されている。湧水点西側付近に小規模集落が散在していたと推測される。

○古墳時代中期～後期

周辺地域において、最も大規模な集落が営まれていた時期と考えられる。丸子沢湧水点を取り囲むように住居群が展開していたと想定される。

○平安時代

周辺地域の調査において、これまでに８世紀代の住居址は確認されていない。７世紀代まで営まれていた集落が、再び出現するのは９世紀後半以降である。当該期の集落は、本遺跡から南方に位置する蔵畑Ⅱ遺跡にかけて展開していると想定される。

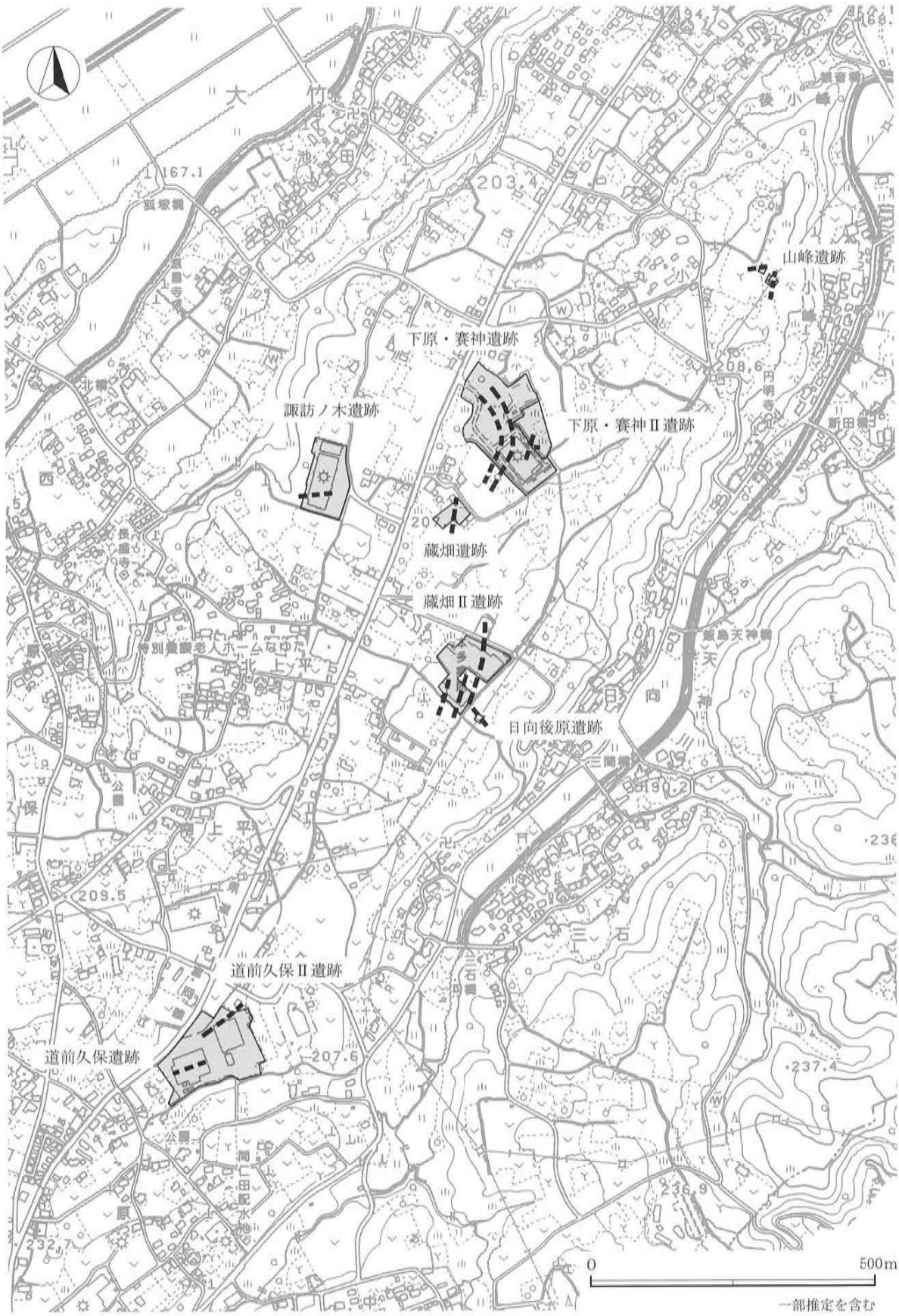


第24図　本遺跡及び周辺遺跡の時期別住居址数

遺跡名	調査年	幅	深さ	方向	他遺構との重複等
道前久保遺跡	1985年			東西	Ｊ－４号住居址（諸磯ｃ式期）を壊している。
道前久保Ⅱ遺跡	1988年	4.0m	0.8m	北東～南西	Ｊ－12号住居址（諸磯ｃ式期）を壊している。
諏訪ノ木遺跡	1990年			東西	Ｈ－127号住居址と重複。
蔵畑遺跡	1991年			南北	他遺構との重複なし。
蔵畑Ⅱ遺跡	1995年			南北	Ｈ－１号・２号住居址と重複。
山峰遺跡	1996年			南北	他遺構との重複なし。
山峰遺跡（北調査区）	1996年	1.0m	0.1m	東西	Ｄ－12号土坑（縄文前期中葉）を壊している。
日向後原遺跡	1996年	3.0m	0.4m	南東～北西	Ｄ－２号土坑（加曽利ＥⅣ式期）を壊している。
下原・賽神遺跡	2000年			南北	
下原・賽神Ⅱ遺跡	2009年			南北・東西	Ｖ字状。Ｈ－５号・６号住居址と重複。

※幅・深さは報告書に記載されている数値。方向は東西・南北・南東～北西・北東～南西の４分割。

第6表　本遺跡及び周辺遺跡で確認された亀裂一覧



第25図　本遺跡及び周辺遺跡で確認された亀裂

亀裂（地震に起因する断層）について

本遺跡が所在する台地上では、過去の発掘調査においても地震に起因すると考えられる亀裂が複数検出されている。本遺跡の周辺では、蔵畑遺跡、蔵畑Ⅱ遺跡、下原・賽神遺跡、諏訪ノ木遺跡、山峰遺跡、日向後原遺跡、道前久保遺跡、同Ⅱ遺跡において亀裂が確認されている。過去の亀裂に関する調査結果は第６表のとおりである。

また、これまでに調査が行われた、周辺遺跡における亀裂形成時期（地震発生の時代）に関する所見については以下のとおりである。

○山峰遺跡（北調査区）

Ｄ－12号土坑（縄文前期中葉）を壊している。

○日向後原遺跡

Ｄ－２号土坑（加曽利ＥⅣ式期）を壊している。

○下原・賽神遺跡

5000年前（縄文時代前期）と818年（弘仁９年）の地震に由来か（下位の噴砂が約5000年前、上位の噴砂は４世紀中葉以降に形成された）。

○道前久保Ⅱ遺跡

Ｊ－12号住居址（諸磯ｃ式期）を壊している。

○蔵畑Ⅱ遺跡

As-YP（約1.3～1.4万年前）層を切って形成されている。また、少なくとも２回の断層を確認。縄文時代と平安時代か。

第25図に本遺跡を含めた周辺地域の亀裂の方向を示した。この図からは亀裂の方向に関する明確な規則性は認められないが、全体的には南北方向のものが多く、東西方向のものは少数である。今回の本遺跡の調査においては南北方向のものと東西方向のものが、Ｖ字状に検出されている。亀裂の幅は南北方向のものが2.5m～2m、東西方向のものが2m～1m程であり、前者の規模が大きい。これらの調査結果より、南北方向の亀裂が主体をなし、その亀裂の間に東西方向のものが部分的に形成されている可能性が考えられる。

次に、亀裂形成につながった地震発生時期についてであるが、過去の周辺遺跡の調査における所見は前掲のとおりである。本遺跡の調査では、亀裂が形成された後にＨ－６号住居址（10世紀前半頃）が築造されたことが確認されている。これらの結果からも、亀裂が形成された地震のなかで、最大・最新のものは818年に発生したものであるとする考えは合理性が高いと思われる。

〈主要参考文献〉

千田　茂雄　1995 『荒神平・吹上遺跡』 安中市教育委員会
大工原　豊他　1998 『上ノ久保遺跡・桜林遺跡・五ケ遺跡』 安中市教育委員会
深町　真・大工原　豊・井上　慎也他　1998 『日向後原遺跡・野毛良遺跡・山峰遺跡』 安中市教育委員会
大工原　豊・千田　茂雄・深町　真・井上　慎也他　2001 『安中市史』第４巻原始古代中世資料編　安中市
井上　慎也　2005 『下原・賽神遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団
井上　慎也他　2005 『蔵畑遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団
大工原　豊・若狭　徹・井上　慎也他　2005 『諏訪ノ木遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団
井上　慎也　2006 『蔵畑Ⅱ遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団
千田　茂雄他　2009 『道前久保Ⅱ遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団

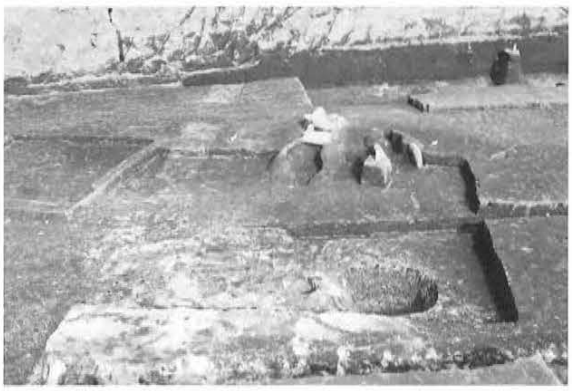
写　真　図　版

調査区全景（左が北）

J－1号住居址

Y－1号住居址

H－1号住居址

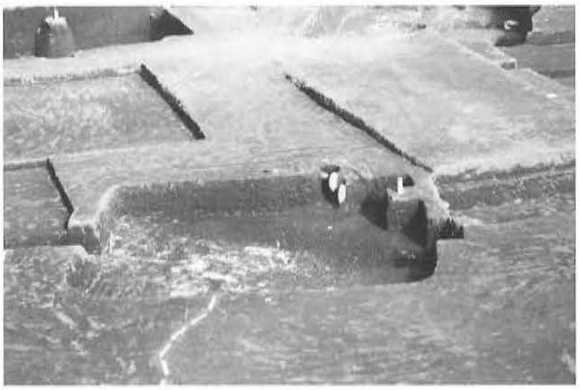


H－2・10号住居址

図版２

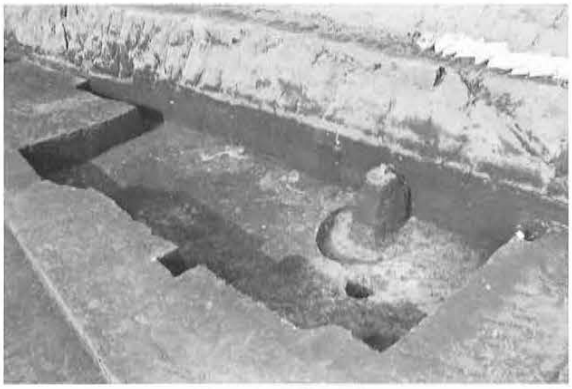
Ｈ－３号住居址

Ｈ－５号住居址



Ｈ－６号住居址

Ｈ－７号住居址



Ｈ－９号住居址

Ｈ－11号住居址

Ｍ－１号溝址

J－1号住

1

2

3

4

5

6

7

Y－1号住

1

2

3

4

5

7

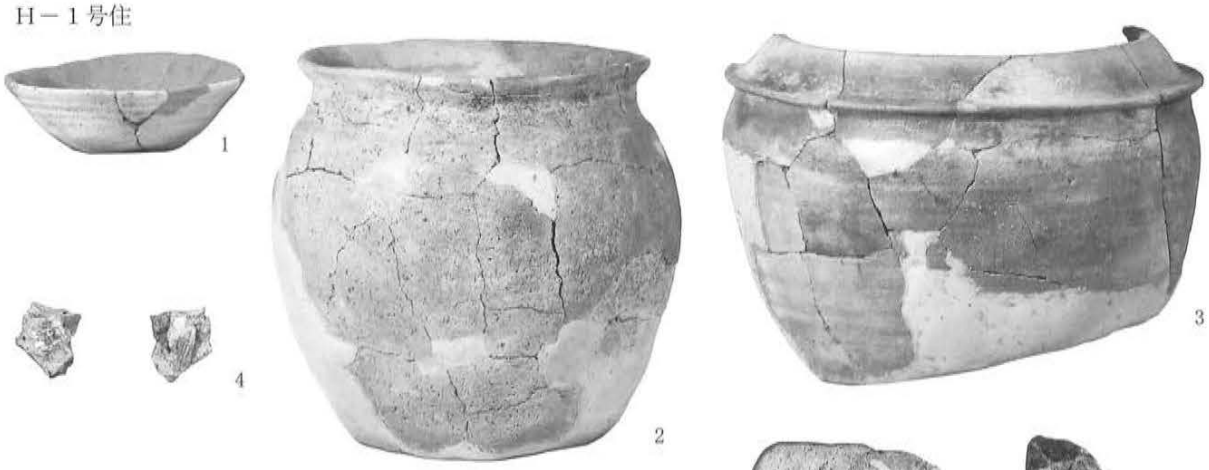
8

6

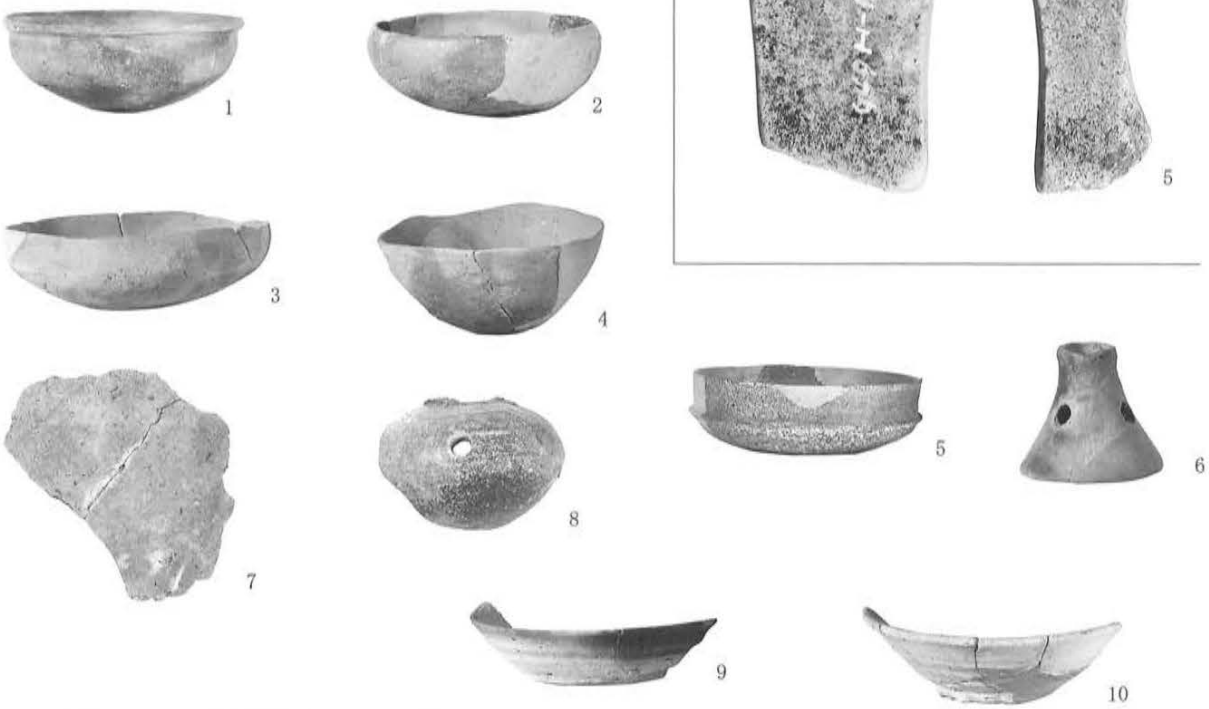
9

図版４

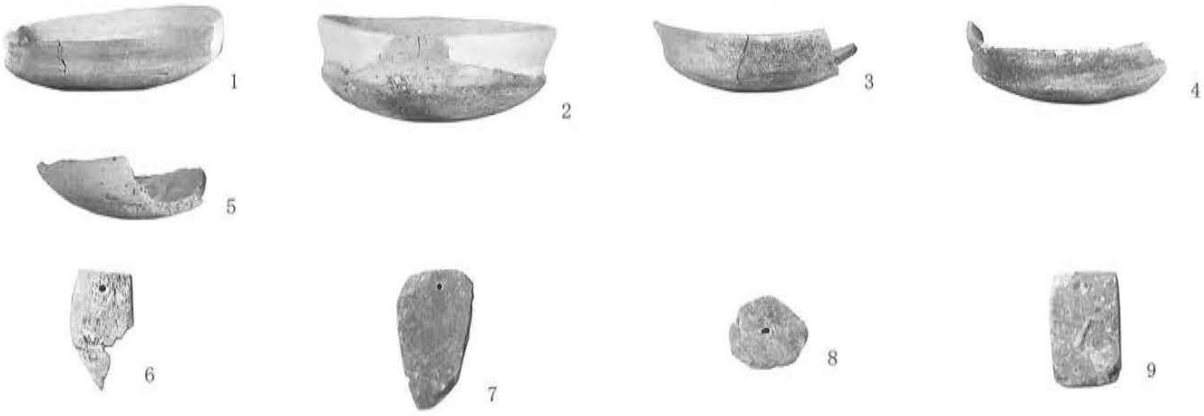
Ｈ－１号住



Ｈ－２・10号住



Ｈ－３号住



H－5号住

1

2

3

4

H－6号住

1

2

3

4

5

H－9号住

1

2

H－11号住

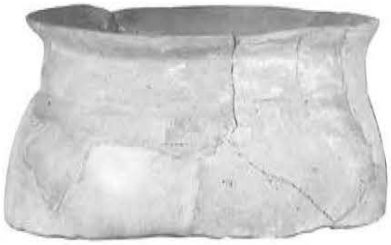
1

2

3

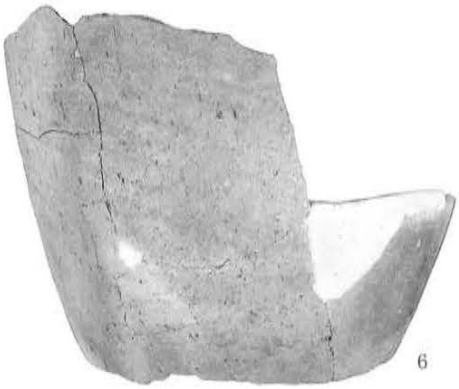
図版6

H－11 号住



4

5



6

7

遺構外

1

2

4

3

5

発掘調査報告書　　抄録

ふりがな	しもはら・さいかみにいせき
書名	下原・賽神Ⅱ遺跡
副書名	工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	千田茂雄・壁　伸明
編集機関	安中市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	379-0292　群馬県安中市松井田町新堀245（安中市教育委員会内）TEL027-382-1111
発行年	西暦2011年（平成23年）9月30日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
下原・賽神Ⅱ遺跡（しもはら・さいかみにいせき）	安中市鷺宮字下原70他（あんなかしさぎのみや あざしもはら ほか）	102113	G－49	36°18′30″	138°53′53″	20091005～20091105	800㎡	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下原・賽神Ⅱ遺跡	集落	縄文中期 弥生後期 古墳 平安	住居址1 住居址1 住居址4 住居址5	縄文土器・石器 弥生土器 土師器・石製品 土師器・須恵器	弥生時代から平安時代まで継続する蔵畑・諏訪ノ木遺跡群を構成する集落址。

下原・賽神Ⅱ遺跡

～工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～

発行日　平成23年9月30日

編集・発行　安中市埋蔵文化財発掘調査団
群馬県安中市松井田町新堀245

印刷　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67